

大分大学工学部理工学科

設置の趣旨等を記載した書類

別添資料 目次

資料1	DP-CP に対応する教養教育科目と理工学部専門教育科目の対応表	2
資料2	大分大学工学部改組の概念図	4
資料3	カリキュラムの構成	5
資料4	プログラム横断科目の学年の流れと概要	6
資料5	カリキュラム・マップ	7
資料6-1	入学時のプログラム配属方法についての申し合わせ	16
資料6-2	一般選抜入学生の転プログラムの取扱いに関する申し合わせ	17
資料6-3	総合型選抜, 学校推薦型選抜, 第3年次編入学, 特別入試入学の学生の転プログラムの取扱いに関する申し合わせ	18
資料6-4	転プログラム学生の教養科目および理工学部専門教育科目既修得単位の認定に関する申し合わせ	19
資料7	履修モデル	20
資料8	プログラム毎の卒業要件及び必要単位	29
資料9-1	【理工学部】第3年次編入学生の修得すべき単位数について	38
資料9-2	編入学生の履修モデル例	39
資料10-1	教育実習先一覧	40
資料10-2	介護等体験実習先一覧	41
資料11	企業実習先一覧	42
資料12-1	各入試区分ごとの募集の目安及び募集人員	44
資料12-2	共通テスト及び個別学力試験の科目一覧	45
資料12-3	前期日程及び後期日程の配点	46
資料13	理工学部(改組後)の教員配置	47
資料14	国立大学法人大分大学教育職員規程	48

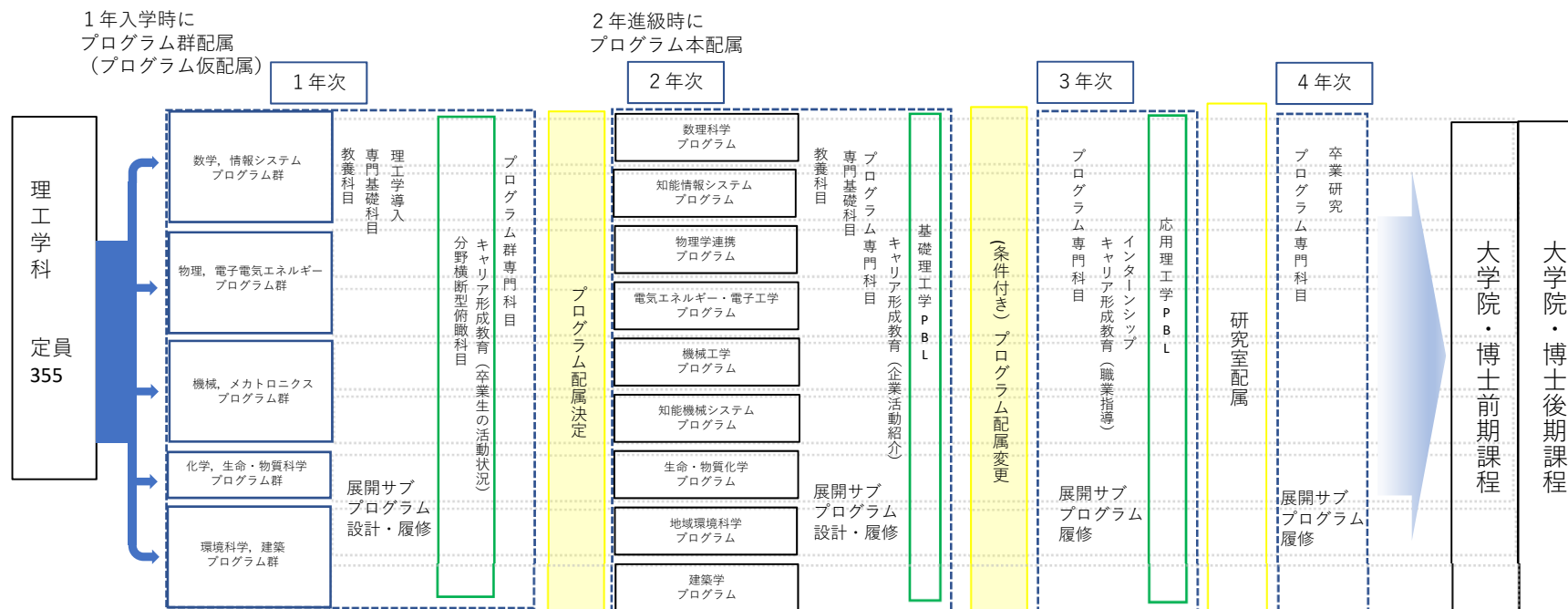
DP-CP に対応する教養教育科目と理工学部専門教育科目の対応表

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	対応する科目
1. 文化, 社会, 自然などの幅広い教養を備え, さらに理工学分野における専攻領域の専門知識・技能と分野を俯瞰する視点を有し, これらを横断的・総合的に活用することができる。	「教養教育科目」により幅広い教養を育む。基盤教育科目により理工学科の学生として必要な数学や物理・化学の基礎を育む。分野横断型の専門科目, 展開サブプログラム科目により, 理学と工学の知識を横断的に活用する力を養成する。プログラム専門科目により専攻分野の高い知識と技能を修得する。それらの知識を基に, 課題解決型(PBL)科目や「卒業研究」により実践応用力を修得する。	教養教育科目: 全学対象教養科目, 大分大学入門, 理工学導入, 理工学入門A・B・C 基盤教育科目: 基礎解析学1・2・3, 基礎代数学1・2・3, 力学, 原子と分子 ほか 共通専門科目: 起業家養成講座, 基礎理工学PBL, 応用理工学PBL ほか プログラム専門科目: 各プログラムで設定
2. 日本語や外国語により, 多様な人たちと, 科学的な内容をふまえて, 意思疎通をすることができるコミュニケーション能力を備え, 他者と協調してチームの一員として活動し, その成果を適切に文章やプレゼンテーションにより発信することができる。	「教養教育科目」及び「外国語科目」により, 日本語や英語による文章表現力を育む。さらに少人数グループ単位で行う「理工学導入」, 「基礎理工学PBL」, 「応用理工学PBL」, 「卒業研究」により, 多様な人たちと意思疎通をすることができるコミュニケーション能力と協調性, さらに社会で活躍するための力を養う。	教養教育科目: 全学開講教養科目, 外国語科目, 理工学導入 専門教育科目: 基礎理工学PBL, 応用理工学PBL, インターンシップA・B, 卒業研究, 各プログラム設定科目
3. 輻輳した現代の課題に対し, 総合的な視点から個人または他者と協働して課題解決に取り組み, 理工学的観点から, 解決方策の提案や解決への活動に貢献することができる。	「教養教育科目」により問題解決に必要な基礎を学ぶ。実験・実習系科目で協調学習に取り組む。「基礎理工学PBL」, 「応用理工学PBL」においてグループワークにより課題の解決策を考え, 発表する。また「卒業研究」では能動的に	教養教育科目: 理工学導入, 理工学入門A・B・C 専門教育科目: 基礎理工学PBL, 応用理工学PBL, インターンシップA・B, 卒業研究, 各プログラム設定科目

	卒業論文のテーマに取り組む。これらにより個人または他者と協働で課題を解決する能力を養成する。	
4. 理工学分野の技術者，研究者，教育者としての高い責任感と倫理観を備え，自らの良心と良識に従って行動することができる。	「教養教育科目」及び専門科目で倫理の内容を含む科目の履修を通じて，技術者としての社会的責務の理解と，倫理観を醸成する。	教養教育科目：学生生活入門ほか 専門教育科目：技術者倫理，卒業研究，各プログラム設定科目
5. 人類の福祉や地域社会のため，理学・工学の視点から課題解決に貢献することができる。	「教養教育科目」及び「外国語科目」により，多様な文化・価値観を理解する。「専門教育科目」により，イノベーションを基とした地域発展・人類福祉へ貢献する力を養成する。	教養教育科目：高度化①「地域ブランディングA」，高度化①「地域ブランディングB」など 専門教育科目：データサイエンス，基礎理工学PBL，応用理工学PBL，インターンシップA・B，卒業研究，各プログラム設定科目
6. 変化の激しい時代に対応し，技術者，研究者あるいは教育者として，課題解決に必要な知識を生涯にわたり主体的に学修することができる。	「教養教育科目」，「専門科目」，「副専門科目」，「卒業研究」や課題解決型(PBL)科目，実験・実習系科目，データサイエンス系科目により，主体的に学び，生涯にわたり学修する力を養成する。	教養教育科目：全学対象教養科目，大分大学入門，理工学導入，理工学入門A・B・C 専門教育科目：データサイエンス，起業家養成講座，基礎理工学PBL，応用理工学PBL，インターンシップA・B，卒業研究，各プログラム設定科目

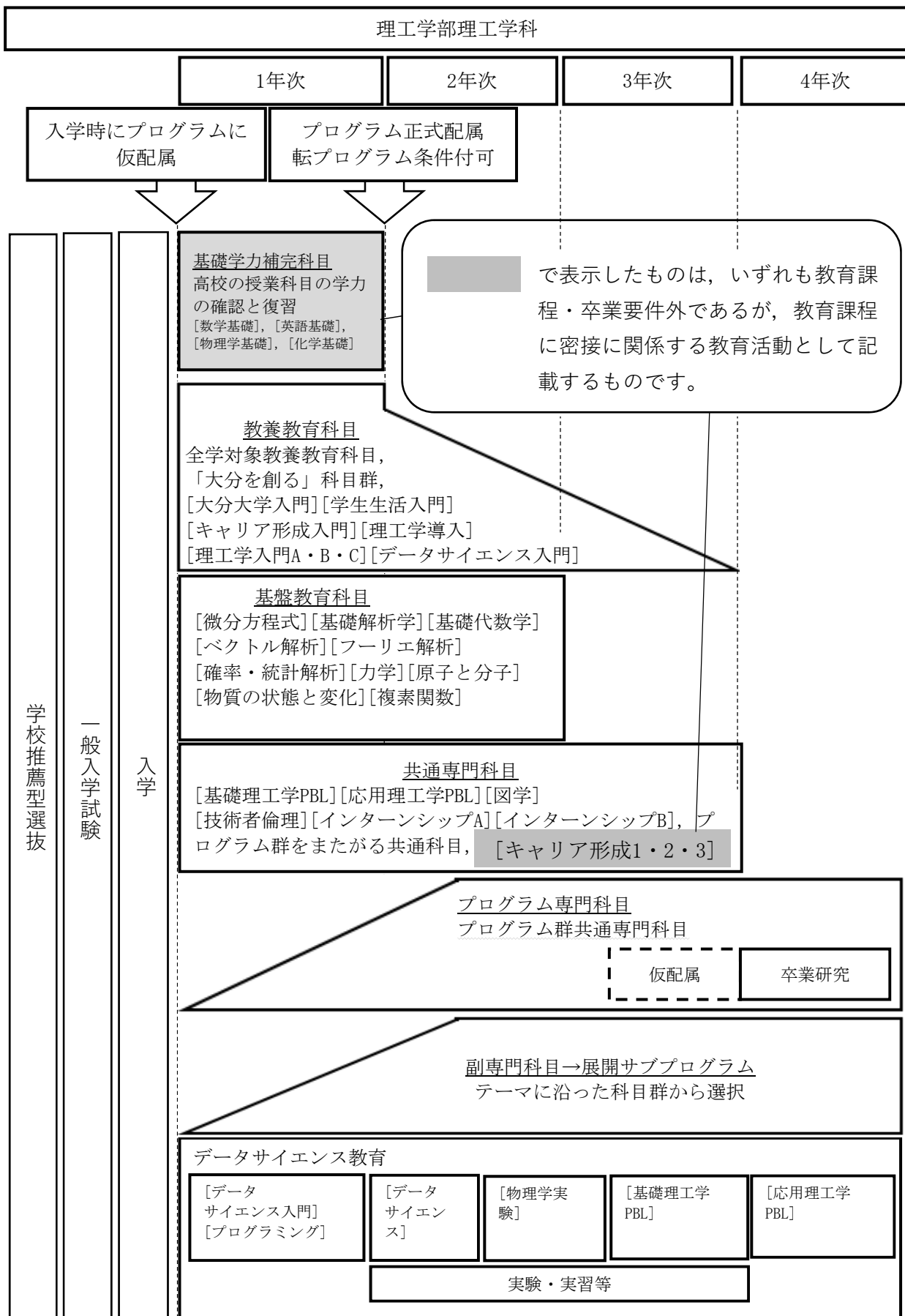
大分大学工学部改組の概念図

- 理工学分野において、よって立つ基盤としての主分野での専門能力の着実な定着
- 輻輳した現代の課題に、総合的な視点から分野を越えた連携による課題解決に貢献、主導できる能力の醸成



プログラム配属決定・変更
 1年・2年修了時のプログラム配属決定変更については、学業成績をもとに、当該プログラムの募集の目安の10%程度を考える。
 2年修了時の配属変更については、加えて、当該プログラムの修了について副専門科目や展開サブプログラム履修等により4年で修了可能であることを条件とする。

カリキュラムの構成



プログラム横断科目の学年の流れと概要

プログラム群に仮配属			
1 年 次	前期	<p><u>大分大学入門（必修，1単位）</u> 大学での学修と学生生活の理解（ICT活用の基礎，学生生活の基礎，大学での学びとキャリア形成，健康管理，図書館利用，クリティカル・シンキング，男女共同参画）</p> <p><u>理工学導入（必修，2単位）</u> 理工学部導入教育</p> <p><u>データサイエンス入門（必修，1単位）</u> AI・データ活用の基礎（社会におけるデータとAI利活用，データリテラシー，データ・AI利活用における留意事項）</p> <p><u>プログラミング（必修，2単位）</u> <small>（数理学プログラム，情報システムプログラム以外の自専門科目でプログラミングを行わないプログラム対象）</small></p>	基礎学力補完科目 数学基礎，英語基礎， 物理学基礎，化学基礎
	後期	<p><u>理工学入門A・B・C（3つの中から1科目選択，必修，2単位）</u> 分野横断型俯瞰科目（A:数理情報系，B:電気・機械系，C:化学・環境・建築学系）</p> <p><u>データサイエンス（必修，2単位）</u> <small>（数理学プログラム，情報システムプログラム以外の自専門科目でデータサイエンスを行わないプログラム対象）</small> データから意味を抽出し，課題解決につなげる基礎能力を修得</p> <p><u>キャリア形成1</u> 学びと仕事，企業で「働く」ことへのイメージ形成，卒業生の講演など。</p>	

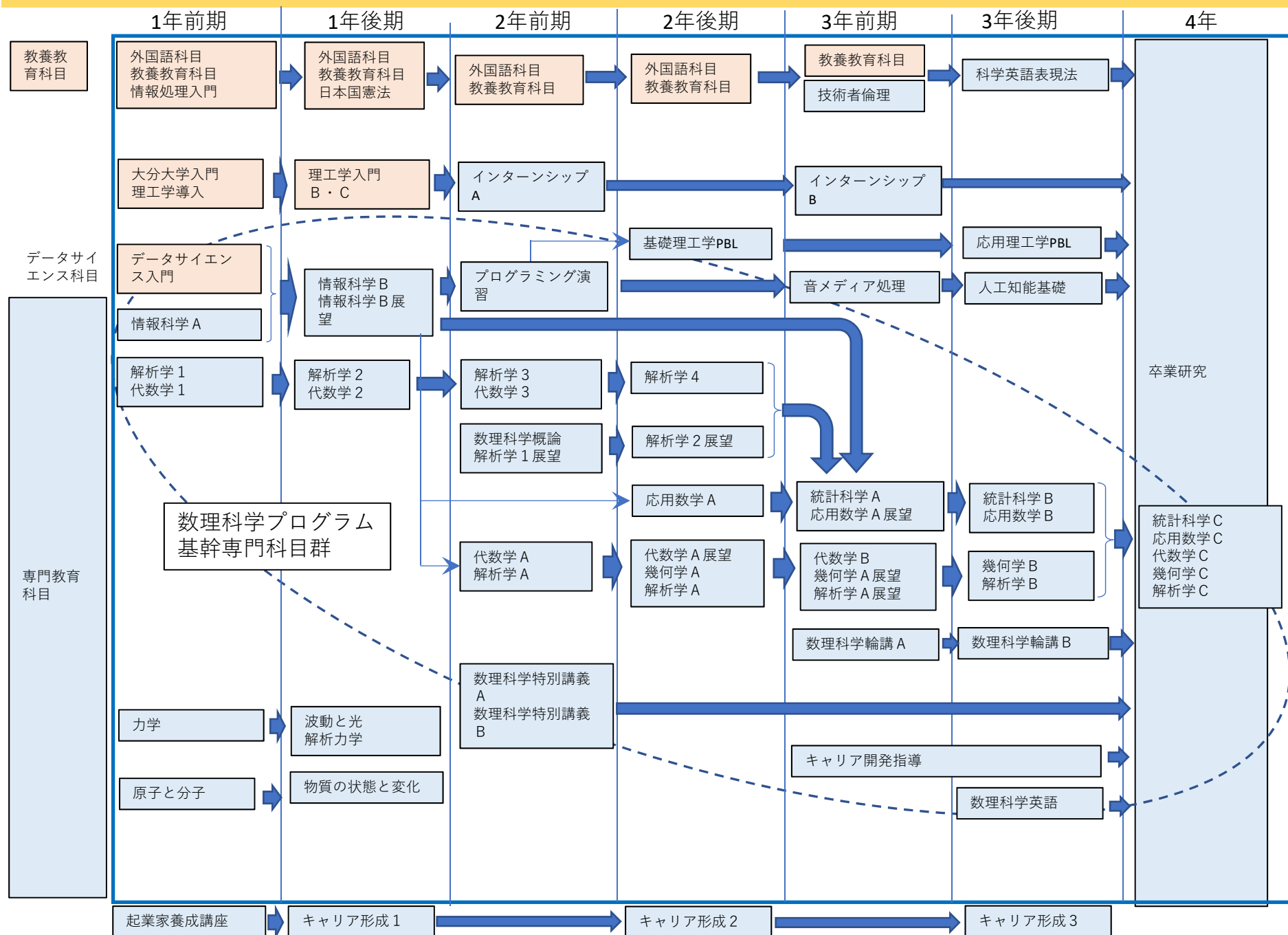
- ①入学時に仮配属されたプログラムへの配属を希望する学生は，そのプログラムに配属する。
②入学時に仮配属されたプログラムから別のプログラムへの配属を希望する学生は，希望のプログラムに配属される（条件付き）。

2 年 次	前期	<p><u>展開サブプログラム（2～4年次，4単位必修【副専門科目】，6単位選択）</u> 理工学の基礎となる専門知識を修得させることを目的として，他プログラム専門科目の入門科目を4単位履修する．展開サブプログラム修了の認証を受ける学生は加えて6単位を履修。</p> <p><u>インターンシップA（選択，1単位）</u></p>
	後期	<p><u>基礎理工学PBL（必修，2単位）</u> 小グループで与えられた基礎的課題に取り組む。</p> <p><u>キャリア形成2</u> 企業の方の講話。求める資質，スキル，人物像，生涯設計等について。</p>
3 年 次	前期	<p><u>インターンシップB（選択，2単位）</u> 企業でのインターンシップを20日間行なう。</p> <p><u>技術者倫理・建設技術者倫理（必修，2単位）</u> 技術者・研究者として持つべき行動規範と自律した倫理観。</p>
	後期	<p><u>応用理工学PBL（必修，2単位）</u> 小グループで与えられた応用的課題に取り組む。</p> <p><u>キャリア形成3</u> 企業から求められる人材像，能力，スキルの意識づけと，企業選択の指導。</p>

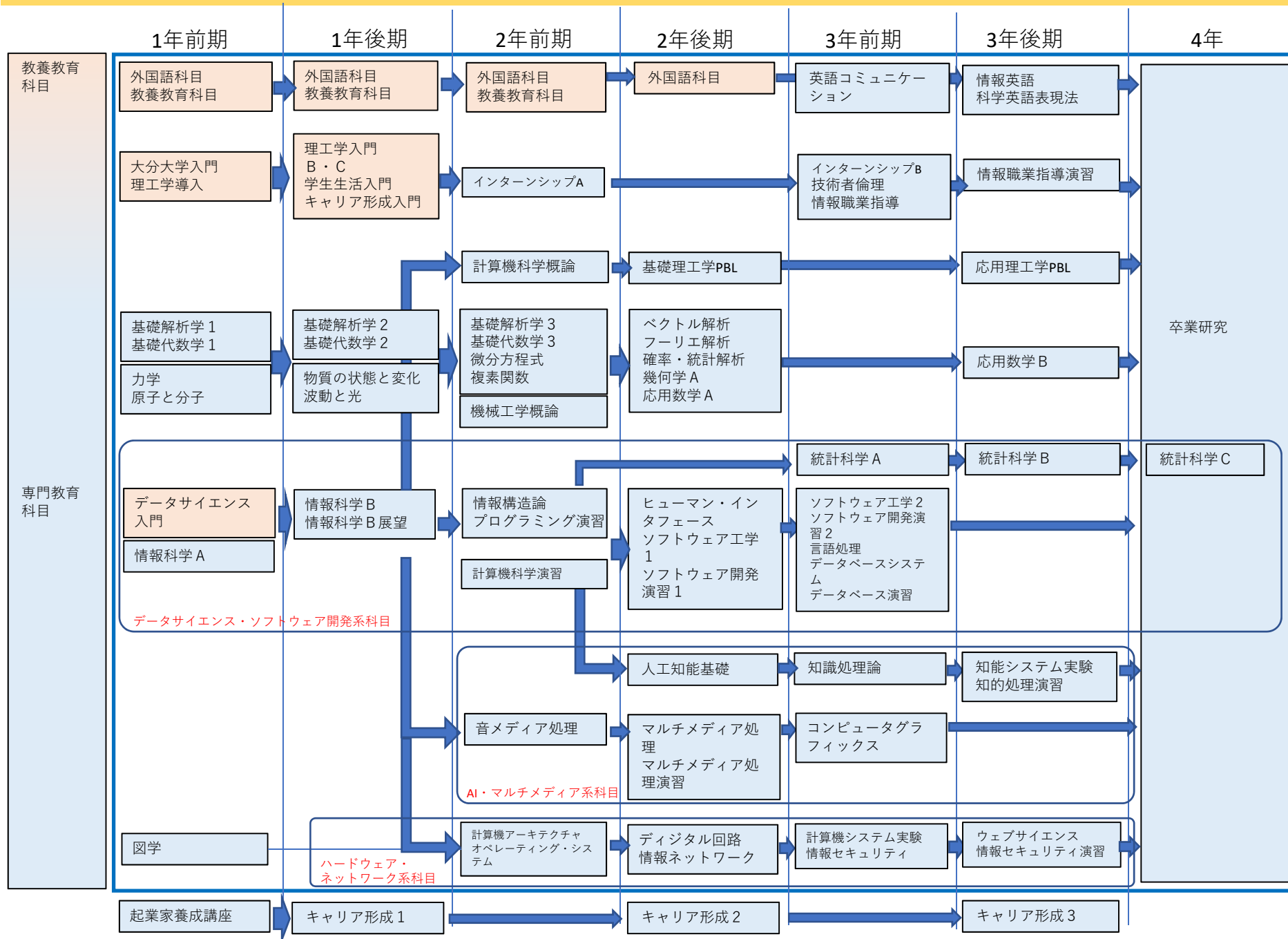
で表示したものは，いずれも教育課程・卒業要件外であるが，教育課程に密接に関係する教育活動として記載するものです。

1. 数理科学プログラム カリキュラム・マップ

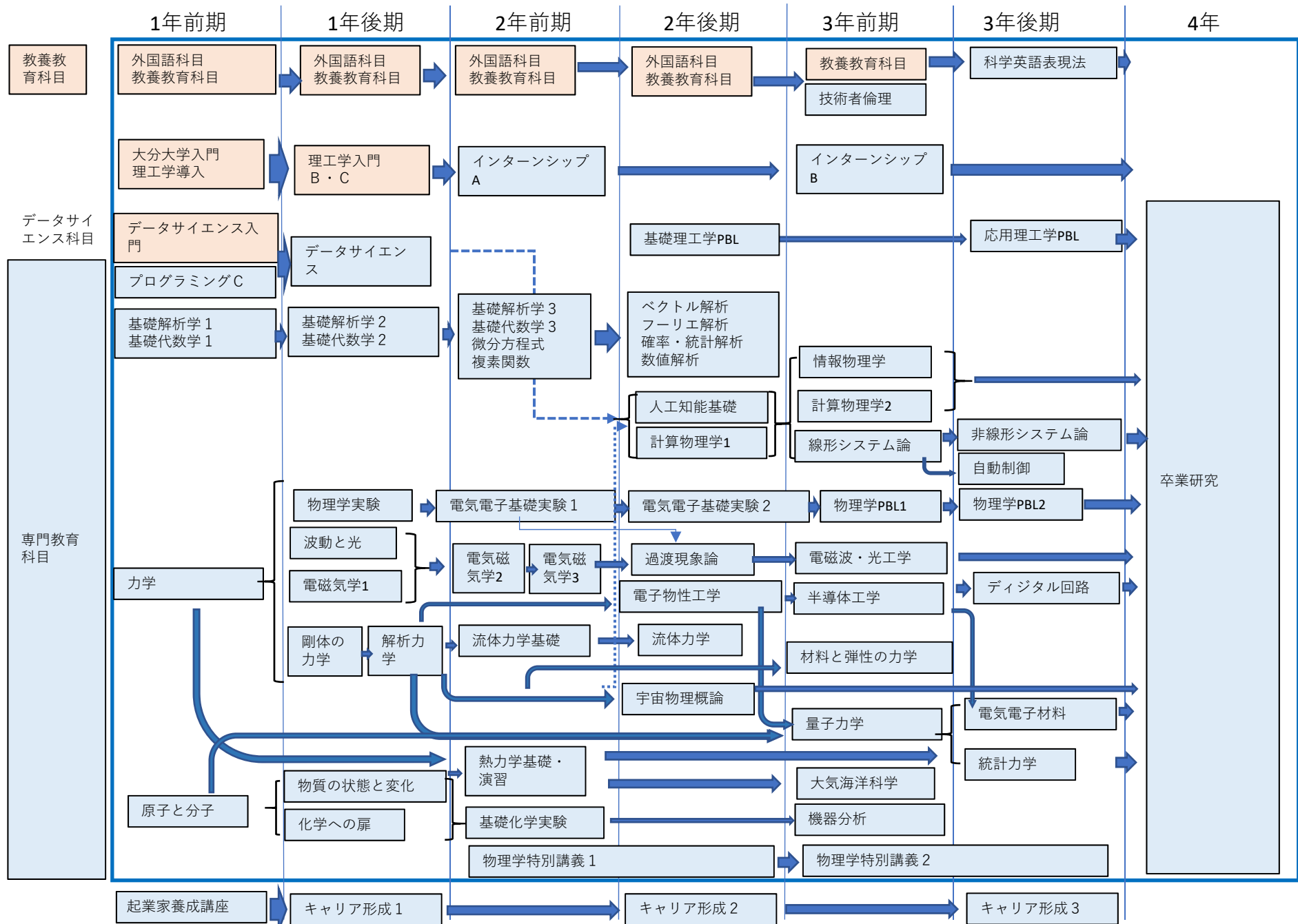
資料5



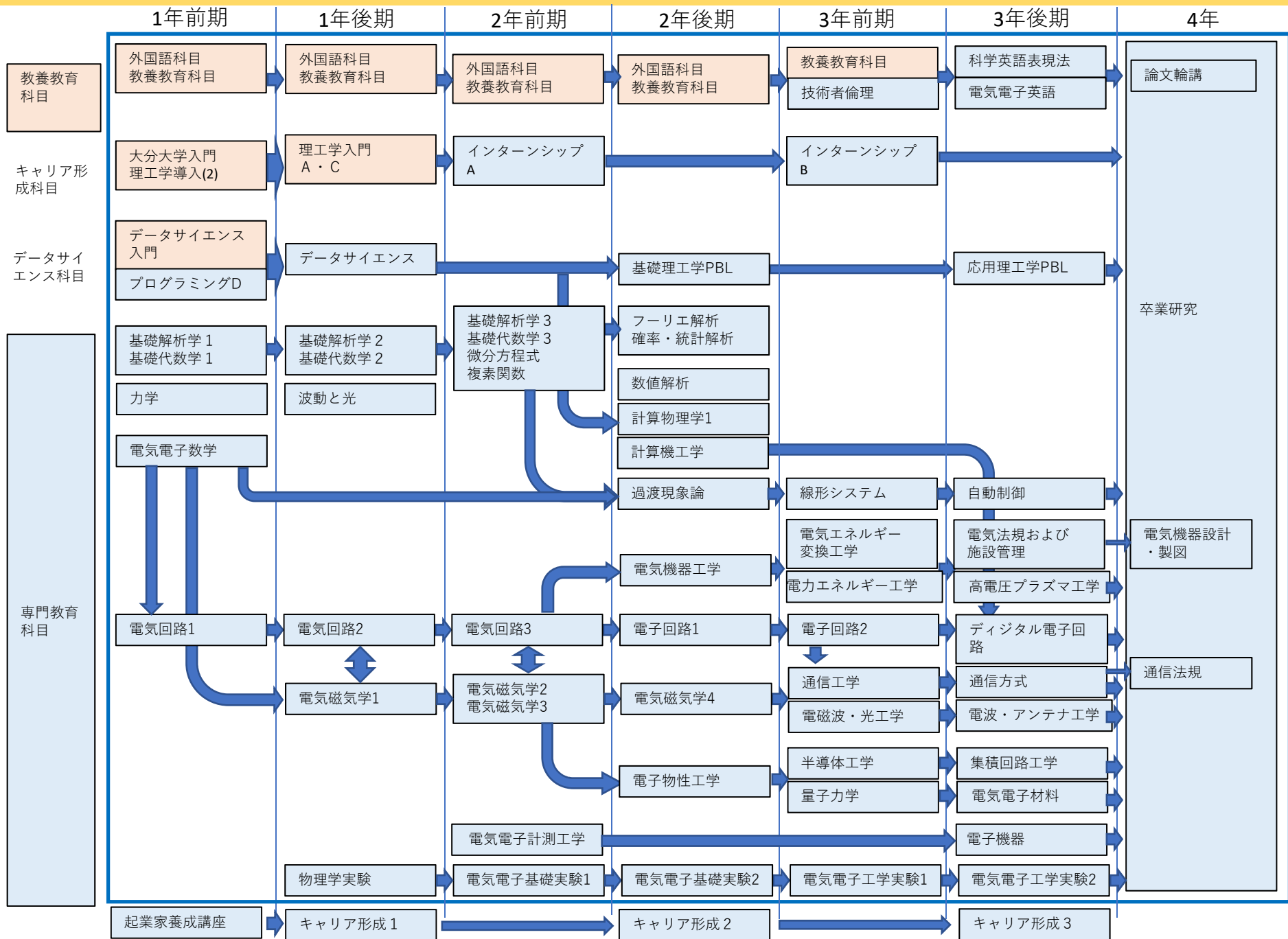
2. 知能情報システムプログラム カリキュラム・マップ



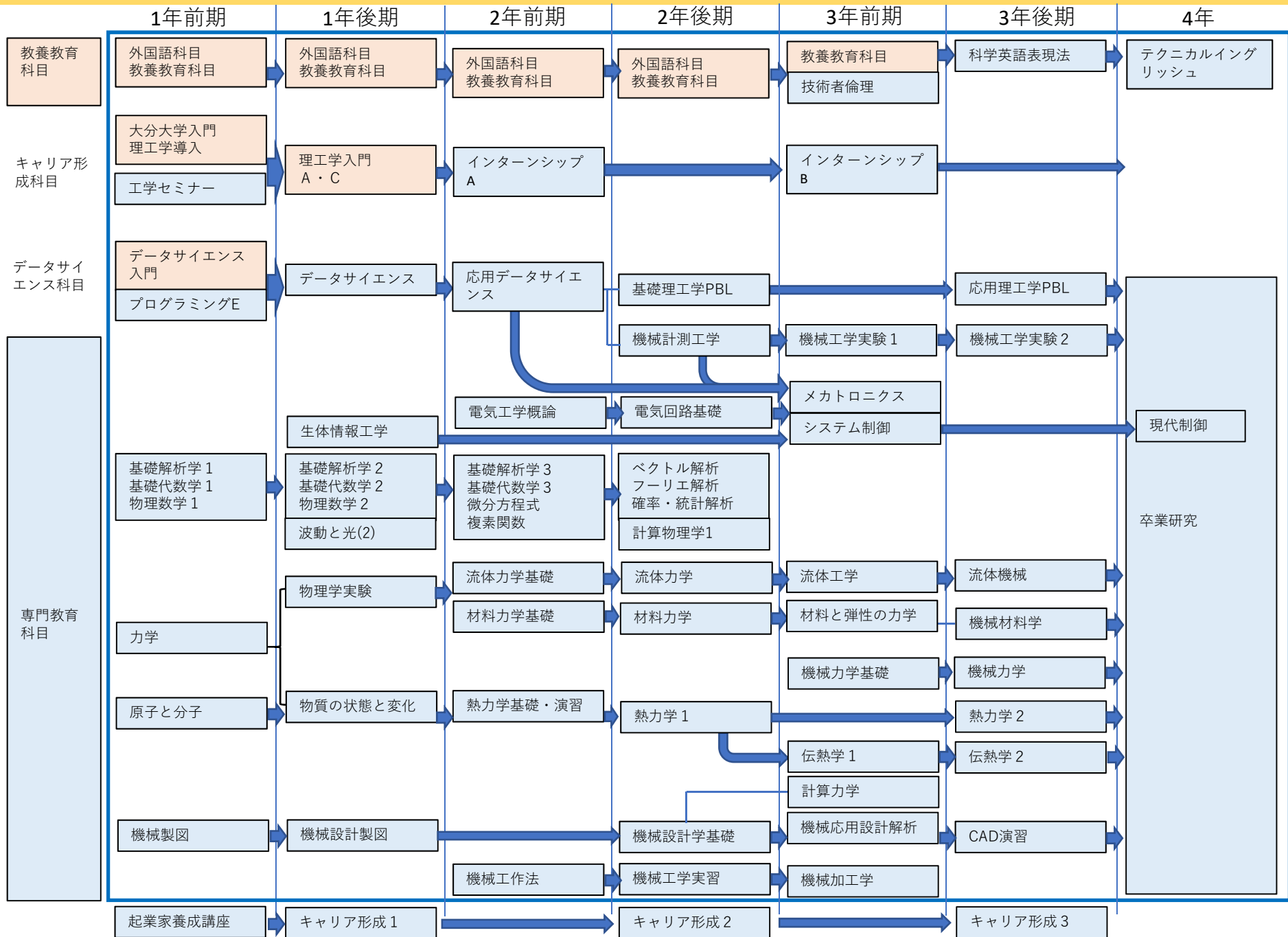
3. 物理学連携プログラム カリキュラム・マップ



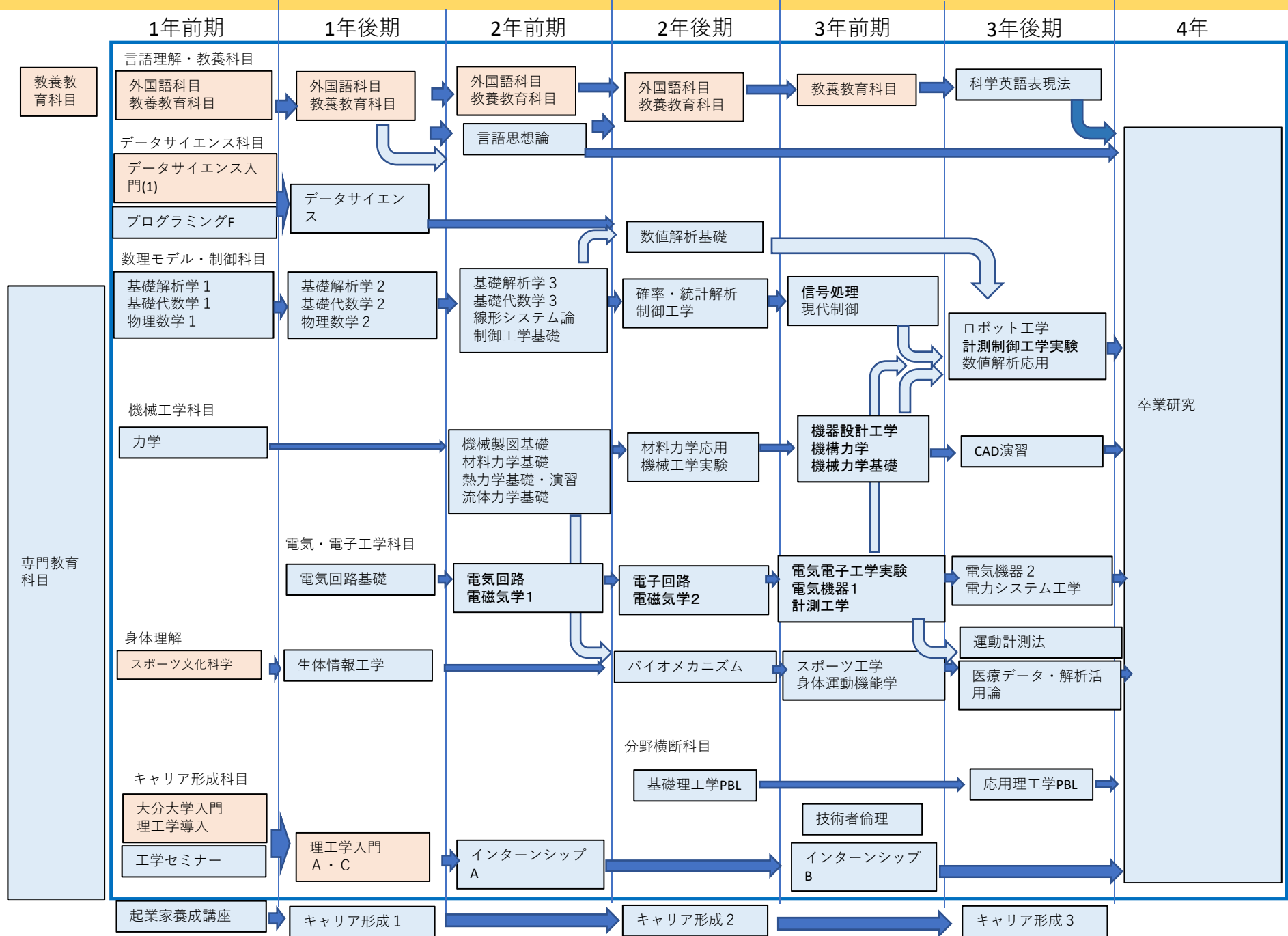
4. 電気エネルギー・電子工学プログラム カリキュラム・マップ



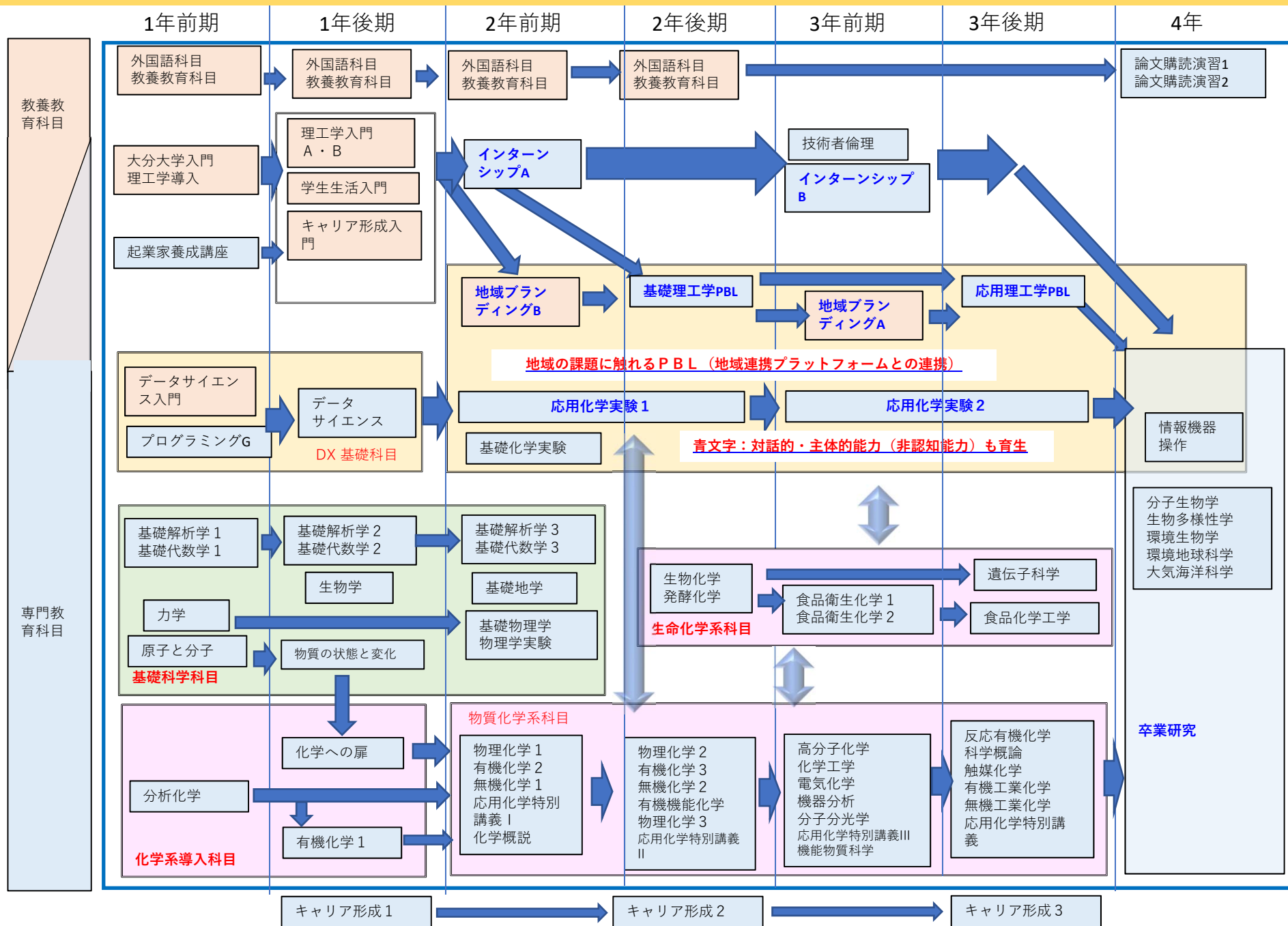
5. 機械工学プログラム カリキュラム・マップ



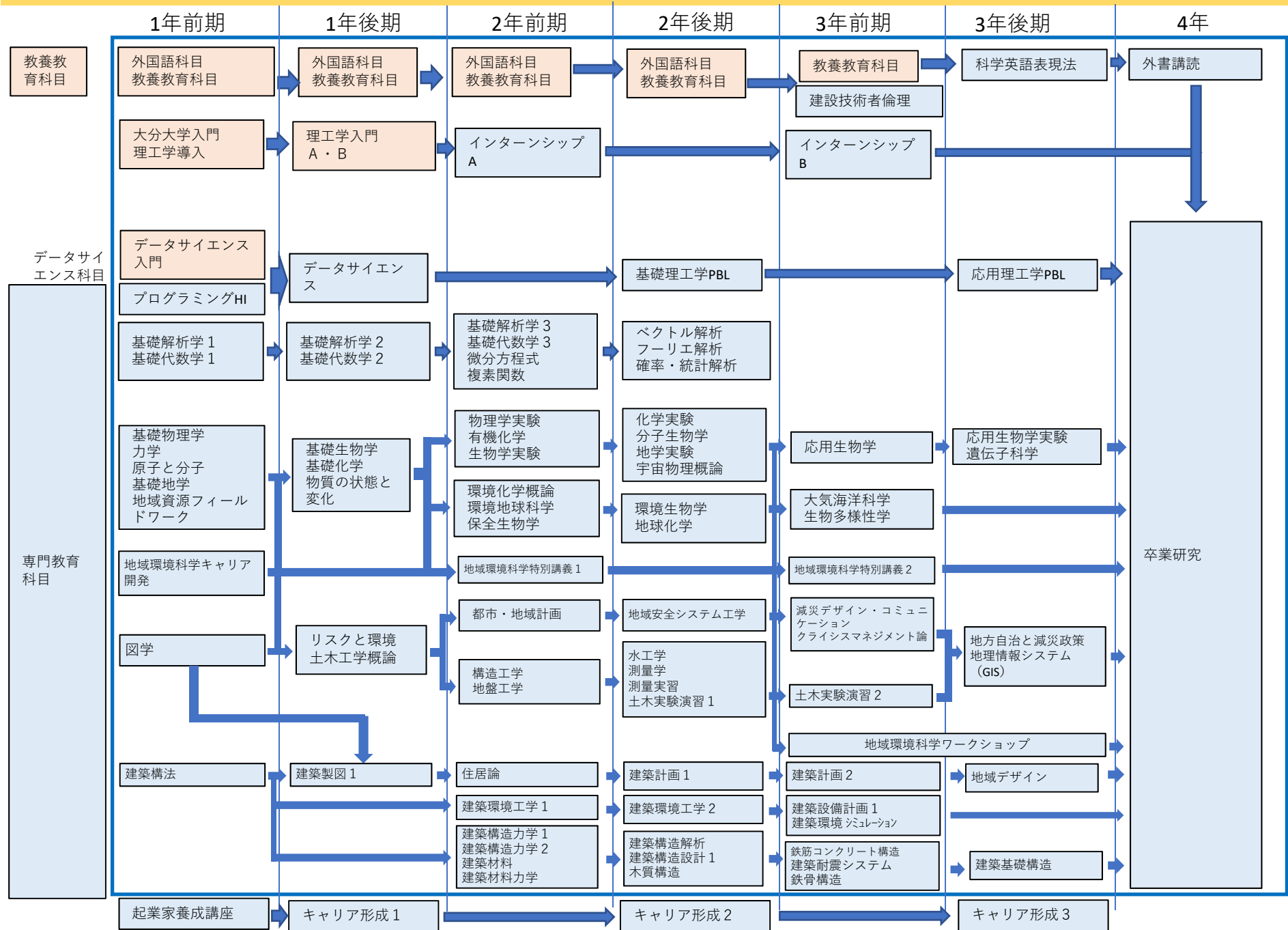
6. 知能機械システムプログラム カリキュラム・マップ



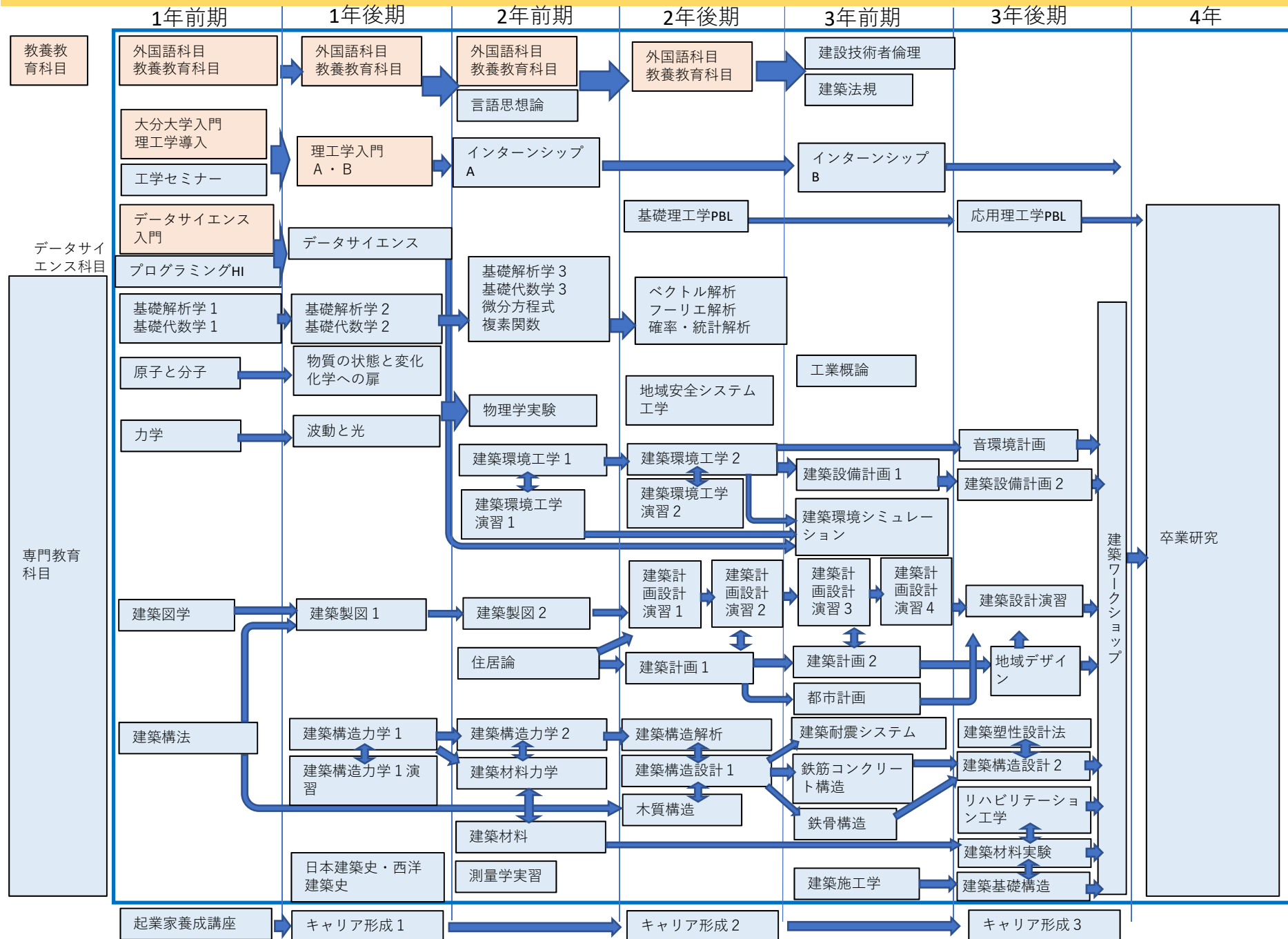
7. 生命・物質化学プログラム カリキュラム・マップ



8. 地域環境科学プログラム カリキュラム・マップ



9. 建築学プログラム カリキュラム・マップ



入学時のプログラム配属方法についての申し合わせ

令和4年4月1日 理工学部教務委員会承認

(趣旨)

1. 入学選抜方法別のプログラム配属方針をここに定める。

(プログラム配属方法)

2. 一般選抜入試の前期日程および後期日程で入学した学生は、入試出願時の希望調査を基に入学時に各プログラム群およびプログラムに仮配属する。1年次に仮配属となったプログラムに2年次以降も所属を希望する場合は、そのまま当該プログラムに正式配属する。
3. 総合型選抜、学校推薦型選抜、第3年次編入学、特別入試入学の学生は、入学時に各プログラム群およびプログラムに正式配属する。

(転プログラム実施方法)

4. 一般選抜入試の前期日程および後期日程で入学した学生が、2年次および3年次への進級時において転プログラムを希望する場合は、「一般選抜入学生の転プログラムの取扱いに関する申し合わせ」に従い、成績上位者の転プログラムを認める。
5. 総合型選抜、学校推薦型選抜、第3年次編入学、特別入試入学の学生が転プログラムを希望する場合は、「総合型選抜、学校推薦型選抜、第3年次編入学、特別入試入学の学生の転プログラムの取扱いに関する申し合わせ」に従い、希望プログラムにおいて転プログラムを許可する学生数が満たされていない場合に限り、申し合わせに従い転プログラムを認める。

(転プログラム受け入れ人数の要件)

6. 転プログラムを許可する学生数は、受け入れプログラムの募集の目安数の110%を最大数とし、これから現員数を減じた数とする。このとき、受け入れプログラムから出て行く学生数は考慮しない。

一般選抜入学生の転プログラムの取扱いに関する申し合わせ

令和4年4月1日 理工学部教務委員会承認

(趣旨)

1. 2年次および3年次への進級時において、一般選抜入試で入学した学生が転プログラムを希望する場合の取扱いをここに定める。転プログラムは理工学科全プログラム間で認める。

(転プログラム申請の手続き)

2. 申請の受付は毎年度1月4日から1月末日までの平日とし、所定の様式による申請書を理工学部学部長に提出する。

(転プログラム申請の資格)

3. 転プログラム申請者は、以下の要件をすべて満たすこと。
 - (1) 転プログラムを希望する理由に妥当性があること。
 - (2) 次に示す成績を満たすこと。
 - ・ 1年次から2年次への進級時に転プログラムを希望する場合は、1年次末の累積GPAが3.0以上、取得単位数が43単位以上であること。
 - ・ 2年次から3年次への進級時に転プログラムを希望する場合は、2年次末の累積GPAが3.0以上、取得単位数が91単位以上であること。
 - (3) 転プログラムを許可されたことがないこと。

(転プログラム生の受け入れ要件)

4. 転プログラム生の受け入れ要件は以下のとおりとする。
 - (1) 転プログラムを許可した場合は、同年次生に編入する。
 - (2) 転プログラムを許可する学生数は、申請者と同年次の受け入れプログラムの募集の目安数の110%を最大数とし、これから現員数を減じた数とする。

(合否の判定)

5. 各プログラムで、転プログラム希望学生数が転プログラムを許可する学生数の3倍を超える場合は、受け入れプログラムはプログラム申請書に記されている希望理由、累積GPA、総取得単位より事前審査を行う。この審査に合格した学生に対し面接を実施する。転プログラム希望学生数が転プログラムを許可する学生数の3倍未満の場合は、希望する学生全員に面接を実施する。受け入れプログラムは面接結果及び「転プログラム申請の資格」より受け入れの可否を判定し、この判定結果および教務委員会の議を経て、教授会で合否を決定する。

(判定結果の通知)

6. 転プログラム申請の合否は、3月末の履修登録開始前までに本人に通知する。

総合型選抜，学校推薦型選抜，第3年次編入学，特別入試入学の学生の
転プログラムの取扱いに関する申し合わせ

令和4年4月1日 理工学部教務委員会承認

(趣旨)

1. 総合型選抜，学校推薦型選抜，第3年次編入学，特別入試で入学した学生が転プログラムを希望する場合の取扱いをここに定める。

(転プログラムの申請の要件)

2. 「一般選抜入学生の転プログラムの取扱いに関する申し合わせ」に基づく一般入試入学生の転プログラム合否判定後，本申し合わせに該当する学生が転プログラムを希望するプログラムにおいて，転プログラムを許可する学生の数を満たされておらず，かつ現在所属するプログラムおよび転プログラム希望先の両プログラムの合意がある場合，転プログラムの申請を受け付ける。

3. 振替可能講義及び実験単位数が35単位に満たない場合は，転プログラムを認めない。

(可否の判定)

4. 受入れ希望プログラムにおいて，面接・試問等を行い，入学後の学業成績と総合して受け入れの可否を判断する。

(転プログラムの受け入れ)

5. 転プログラムは理工学科全プログラム間で認める。
6. 転プログラムは1回のみ認め，第2年次への転入とする。

転プログラム学生の教養科目および理工学部専門教育科目既修得単位の認定
に関する申し合わせ

令和 4 年 4 月 1 日 教務委員会承認

(趣旨)

1. 転プログラムを認められた学生に対し、個々の履修科目を考慮した上で教務委員会において単位の認定を行う。

(教養教育科目の認定)

2. 教養教育科目は、全ての既修得単位を認定する。また「理工学入門 A」, 「理工学入門 B」, 「理工学入門 C」については、修得科目が受け入れプログラムの卒業要件でない場合でも、卒業単位として認定する。

(専門教育科目の認定)

3. シラバスを基に個別に科目認定と読み替えを行う。受け入れプログラムの卒業要件と
ならない科目は副専門科目（4 単位）または B 選択科目として認定する。
4. 副専門科目として修得した単位で、受け入れプログラムの卒業要件となる科目は、卒業要件単位として認定する。

(認定単位数の上限)

5. 教養教育科目および専門教育科目において、認定の上限は設けない。

1. 数理科学プログラム

赤字：必修科目，青字：選択必修，黒字：選択科目，()内の数字は単位数，Q1~Q4：第1~4：クォーター開講科目

年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目 26単位	英語 I (1) × 2 理工学導入 (2) データサイエンス入門 (1) Q2 大分大学入門 (1) Q1 スポーツ文化科学 (2) 情報処理入門 (2)	英語 I (1) × 2 理工学入門 B (2)・C (2) はどちらか選択必修 日本国憲法 (2) 地域ブランディング A (2)	英語 II (1) 地域ブランディング B (2) 生涯学習入門 (2)	英語 II (1) 教養科目 (2) × 1					
全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)，主題「福祉・地域」から1科目(2)以上を含むこと。									
専門教育科目	基礎教育科目	力学 (2) 原子と分子 (2)	物質の状態と変化 (2)	言語思想論 (2)					
	共通専門科目		波動と光 (2) 解析力学 (1)	インターンシップ A (1)	基礎理工学 PBL (2)	技術者倫理 (2) 音メディア処理 (2) インターンシップ B (2)	応用理工学 PBL (2) 人工知能基礎 (2) 科学英語表現法 (2)		
	共通専門科目群	情報科学 A (2)	情報科学 B (2) 情報科学 B 展望 (2)	プログラミング演習 (2)	幾何学 A (2) 応用数学 A (2) マルチメディア処理 (2) マルチメディア処理演習 (1) ヒューマン・インタフェース (2)	統計科学 A (2) コンピュータグラフィックス (2) データベースシステム (2) データベース演習 (1)	統計科学 B (2) 応用数学 B (2) ウェブサイエンス (2)	統計科学 C (2)	
	プログラム専門科目	解析学 1 (2) 代数学 1 (2)	解析学 2 (2) 代数学 2 (2)	解析学 3 (2) 代数学 3 (2) 数理科学概論 (2) 解析学 1 展望 (2) 代数学 A (2) 解析学 A (2) 数理科学特別講義 A (2) 数理科学特別講義 B (2)	解析学 4 (2) 解析学 2 展望 (2) 代数学 A 展望 (2) 代数学 B (2)	数理科学輪講 A (3) キャリア開発指導 (2) [通年] 幾何学 A 展望 (2) 解析学 A 展望 (2) 応用数学 A 展望 (2)	数理科学輪講 B (3) キャリア開発指導 [通年] 数理科学英語 (2) 幾何学 B (2) 解析学 B (2)	卒業研究 (8) [通年] 代数学 C (2) 幾何学 C (2) 解析学 C (2) 応用数学 C (2)	卒業研究 [通年]
科目			副専門科目 1 (2)	副専門科目 2 (2)					
単位	開講単位数： 20 必修・選択必修： 16 選択： 4 学期履修単位： 20	開講単位数： 21 必修・選択必修： 12 選択： 9 学期履修単位： 18	開講単位数： 28 必修・選択必修： 15 選択： 13 学期履修単位： 18	開講単位数： 22 必修・選択必修： 15 選択： 7 学期履修単位： 16	開講単位数： 26 必修・選択必修： 17 選択： 9 学期履修単位： 21	開講単位数： 21 必修・選択必修： 9 選択： 12 学期履修単位： 17	開講単位数： 18 必修・選択必修： 8 選択： 10 学期履修単位： 14	開講単位数： 156 必修・選択必修： 92 選択： 64 卒業要件単位： 124	
卒業要件 教養科目： 26単位，専門科目 98単位 合計： 124単位以上 (副専門科目： 4単位必修)									

2. 知能情報システムプログラム

赤字：必修科目，青字：選択必修，黒字：選択科目，()内の数字は単位数，Q1～Q4：第1～4：クォーター開講科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	英語 I (1) × 2 理工学導入(2) 大分大学入門(1)Q1 データサイエンス入門(1)Q2 教養科目(2) × 2	英語 I (1) × 2 理工学入門 B(2)・C(2) ほか ちらか選択必修 学生生活入門(1) キャリア形成入門(1) 教養科目(2) × 2	英語 II (1) 教養科目(2) × 2	英語 II (1)					
26 単位	全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)，主題「福祉・地域」から1科目(2)以上を含むこと。								
専門教育科目	基礎教育	基礎解析学 1 (2) 基礎代数学 1 (2) 力学(2) 原子と分子(2)	基礎解析学 2 (2) 基礎代数学 2 (2) 物質の状態と変化(2)	基礎解析学 3 (2) 基礎代数学 3 (2) 微分方程式(2) 複素関数(2)	ベクトル解析(2) フーリエ解析(2) 確率・統計解析(2)				
	共通専門科目	図学(2)	波動と光(2)	音メディア処理(2) 機械工学概論(2) インターンシップ A(1)	基礎理工学 PBL(2) 人工知能基礎(2)	技術者倫理(2) インターンシップ B(2)	応用理工学 PBL(2) 科学英語表現法(2)		
	共通専門科目群	情報科学 A (2)	情報科学 B (2) 情報科学 B 展望(2)	プログラミング演習(2)	応用数学 A (2) 幾何学 A (2) マルチメディア処理(2) ヒューマン・インタフェース(2) マルチメディア処理演習(1)	統計科学 A (2) データベースシステム(2) コンピュータグラフィックス(2) データベース演習(1)	応用数学 B (2) 統計科学 B (2) ウェブサイエンス(2)	統計科学 C (2)	
	プログラム専門科目			計算機科学概論(1)Q1 情報構造論(2) 計算機アーキテクチャ(2) オペレーティング・システム(2) 計算機科学演習(1) 情報工学特別実習 2A(1)[通年] 情報工学特別実習 2B(2)[通年]	デジタル回路(2) ソフトウェア工学 1 (2) ソフトウェア開発演習 1 (1) 情報ネットワーク(2) 情報工学特別実習 2A[通年] 情報工学特別実習 2B[通年]	ソフトウェア工学 2 (2) ソフトウェア開発演習 2 (1) 言語処理(2) 計算機システム実験(2) 情報セキュリティ(1) 知識処理論(2) 英語コミュニケーション(1) 情報職業指導(2) 情報工学特別講義(2) 情報工学特別実習 3A(1)[通年] 情報工学特別実習 3B(2)[通年]	知能システム実験(2) 情報英語(2) 情報職業指導演習(1) 情報セキュリティ演習(1)Q3 知的処理演習(1) 情報工学特別実習 3A[通年] 情報工学特別実習 3B[通年]	卒業研究(8)[通年] 情報工学特別実習 4A(1)[通年] 情報工学特別実習 4B(2)[通年]	卒業研究[通年] 情報工学特別実習 4A[通年] 情報工学特別実習 4B[通年]
	プログラム科目			副専門科目 1 (2)		副専門科目 2 (2)			
単位	開講単位数：22 必修・選択必修：12 選択：10 学期履修単位：20	開講単位数：22 必修・選択必修：12 選択：10 学期履修単位：20	開講単位数：33 必修・選択必修：19 選択：14 学期履修単位：21	開講単位数：27 必修・選択必修：20 選択：7 学期履修単位：22	開講単位数：31 必修・選択必修：18 選択：13 学期履修単位：22	開講単位数：17 必修・選択必修：8 選択：9 学期履修単位：11	開講単位数：13 必修・選択必修：8 選択：5 学期履修単位：8	開講単位数：165 必修・選択必修：97 選択：68 卒業要件単位：124	

卒業要件 教養科目：26 単位，専門科目 98 単位 合計：124 単位以上（副専門科目：4 単位必修）

3. 物理学連携プログラム

赤字：必修科目、青字：選択必修、黒字：選択科目、()内の数字は単位数、Q1～Q4：第1～4：クォーター開講科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	英語 I (1) × 2 理工学導入(2) データサイエンス入門(1)Q2 大分大学入門(1)Q1 教養科目(2) × 2	英語 I (1) × 2 理工学入門 B (2)・C(2) ほか ちらか選択必修 学生生活入門(1) キャリア形成入門(1) 教養科目(2) × 2	英語 II (1) 教養科目(2)	英語 II (1) 教養科目(2)					
26単位	全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)、主題「福祉・地域」から1科目(2)以上を含むこと。								
専門教育科目	基礎教育科目	基礎解析学 1 (2) 基礎代数学 1 (2) 力学 (2) 原子と分子 (2)	基礎解析学 2 (2) 基礎代数学 2 (2) データサイエンス (2) 物質の状態と変化 (2)	基礎解析学 3 (2) 基礎代数学 3 (2) 微分方程式 (2) 複素関数 (2)	ベクトル解析 (2) フーリエ解析 (2) 確率・統計解析 (2)				
	共通専門科目		波動と光 (2) 物理学実験 (2) 解析力学 (1) 化学への扉 (2)	熱力学基礎・演習 (3) 流体力学基礎 (2) 基礎化学実験 (2)	基礎理工学 PBL (2) 計算物理学 1 (2) 宇宙物理概論 (2) 流体力学 (2) 人工知能基礎 (2)	技術者倫理 (2) 大気海洋科学 (2) 機器分析 (2) 材料と弾性の力学 (2) 線形システム論 (2) インターンシップ B (2)	応用理工学 PBL (2) 非線形システム論 (2) 科学英語表現法 (2)		
	共通プログラム群		電気磁気学 1 (2)	電気電子基礎実験 1 (2) 電気磁気学 2 (2) Q1 電気磁気学 3 (2) Q2	電気電子基礎実験 2 (2) 電子物性工学 (2) 過渡現象論 (2) 数値解析 (2)	量子力学 (2) 電磁波・光工学 (2) 半導体工学 (2)	電気電子材料 (2) デジタル電子回路 (2) 自動制御 (2)		
	プログラム専門科目	プログラミング C (2)	剛体の力学 (1)	物理学特別講義 1 (1)【通年】	物理学特別講義 1【通年】	物理学 PBL 1 (4) 計算物理学 2 (1) 情報物理学 (1) 物理学特別講義 2 (1)【通年】	統計力学 (2) 物理学 PBL 2 (4) 物理学特別講義 2【通年】	卒業研究 (8)【通年】	卒業研究【通年】
	展開サブプログラム科目					副専門科目 1 (2)	副専門科目 2 (2)		
単位	開講単位数：20 必修・選択必修：14 選択：6 学期履修単位：20	開講単位数：28 必修・選択必修：18 選択：10 学期履修単位：23	開講単位数：26 必修・選択必修：19 選択：7 学期履修単位：22	開講単位数：27 必修・選択必修：13 選択：14 学期履修単位：23	開講単位数：27 必修・選択必修：13 選択：14 学期履修単位：16	開講単位数：20 必修・選択必修：12 選択：8 学期履修単位：12	開講単位数：8 必修・選択必修：8 選択：0 学期履修単位：8	開講単位数：156 必修・選択必修：97 選択：59 卒業要件単位：124	

卒業要件 教養科目：26単位、専門科目 98単位 合計：124単位以上（副専門科目：4単位必修）

4. 電気エネルギー・電子工学プログラム

赤字：必修科目，青字：選択必修，黒字：選択科目，()内の数字は単位数，Q1～Q4：第1～4：クォーター開講科目。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目 26単位	英語 I (1) × 2 理工学導入 (2) データサイエンス入門 (1) Q2 大分大学入門 (1) Q1 教養科目 (2) × 2 スポーツ文化科学 (2)	英語 I (1) × 2 理工学入門 A (2) ・ C (2) はどちらか選択必修 学生生活入門 (1) キャリア形成入門 (1) 教養科目 (2) × 2	英語 II (1)	英語 II (1)					
	全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)，主題「福祉・地域」から1科目(2)以上を含むこと。								
専門教育科目	基礎教育科目	基礎解析学 1 (2) 基礎代数学 1 (2) 力学 (2)	基礎解析学 2 (2) 基礎代数学 2 (2) データサイエンス (2)	基礎解析学 3 (2) 複素関数 (2) 微分方程式 (2) 基礎代数学 3 (2)	フーリエ解析 (2) 確率・統計解析 (2)				
	共通専門科目		物理学実験 (2) 波動と光 (2)	図学 (2) 環境地球科学 (2)	基礎理工学 PBL (2) 計算物理学 1 (2) 宇宙物理概論 (2)	技術者倫理 (2) 機械工学概論 (2) 音メディア処理 (2)	応用理工学 PBL (2) 科学英語表現法 (2)		
	共通専門科目群		電気磁気学 1 (2)	電気磁気学 2 (2) Q1 電気磁気学 3 (2) Q2 電気電子基礎実験 1 (2)	過渡現象論 (2) 電子物性工学 (2) 電気電子基礎実験 2 (2) 数値解析 (2)	電磁波・光工学 (2) 半導体工学 (2) 量子力学 (2)	自動制御 (2) 電気電子材料 (2) デジタル電子回路 (2)		
	プログラム専門科目	電気電子数学 (2) 電気回路 1 (2) プログラミング D (2)	電気回路 2 (2)	電気回路 3 (2) 電気電子計測工学 (2)	電気磁気学 4 (2) 電子回路 1 (2) 計算機工学 (2) 電気機器工学 (2)	通信工学 (2) 電気電子工学実験 1 (2) 電子回路 2 (2) 線形システム (2) 電気エネルギー変換工学 (2) 電力エネルギー工学 (2)	電気電子工学実験 2 (2) 電気電子英語 (2) 集積回路工学 (2) 電気法規および施設管理 (2) 通信方式 (2) 電波・アンテナ工学 (2) 高電圧プラズマ工学 (2) 電子機器 (2)	卒業研究 (8) 【通年】	卒業研究 【通年】
	プログラム展開サブ			副専門科目 1 (2)	副専門科目 2 (2)				
単位	開講単位数： 24 必修・選択必修： 18 選択： 6 学期履修単位： 24	開講単位数： 24 必修・選択必修： 16 選択： 8 学期履修単位： 22	開講単位数： 26 必修・選択必修： 17 選択： 9 学期履修単位： 21	開講単位数： 31 必修・選択必修： 19 選択： 12 学期履修単位： 21	開講単位数： 26 必修・選択必修： 12 選択： 14 学期履修単位： 16	開講単位数： 26 必修・選択必修： 6 選択： 20 学期履修単位： 10	開講単位数： 13 必修・選択必修： 8 選択： 5 学期履修単位： 10	開講単位数： 170 必修・選択必修： 96 選択： 74 卒業要件単位： 124	

卒業要件 教養科目：26単位，専門科目 98単位 合計：124単位以上（副専門科目：4単位必修）

5. 機械工学プログラム

赤字：必修科目、青字：選択必修、黒字：選択科目、()内の数字は単位数、Q1～Q4：第1～4：クォーター開講科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目 26単位	英語 I (1) × 2 理工学導入 (2) データサイエンス入門(1)Q2 大分大学入門 (1) Q1 教養科目 (2) スポーツ文化科学(2)	英語 I (1) × 2 理工学入門 A(2)・C(2) はど ちらか選択必修 学生生活入門(1) キャリア形成入門(1) 教養科目 (2)	英語 II (1) 教養科目 (2)	英語 II (1) 地域ブランディング A (2)	地域ブランディング B (2)				
	全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)、主題「福祉・地域」から1科目(2)以上を含むこと。								
専門教育科目	基礎教育科目	基礎解析学 1 (2) 基礎代数学 1 (2) 力学(2) 原子と分子(2)	基礎解析学 2 (2) 基礎代数学 2 (2) データサイエンス(2) 物質の状態と変化(2)	基礎解析学 3 (2) 基礎代数学 3 (2) 微分方程式(2) 複素関数(2)	ベクトル解析(2) フーリエ解析(2) 確率・統計解析(2)				
	共通専門科目		波動と光(2) 物理学実験(2)	熱力学基礎・演習(3) 流体力学基礎(2) インターンシップ A(1)	基礎理工学 PBL(2) 流体力学(2) 計算物理学 1(2)	技術者倫理(2) 材料と弾性の力学(2) インターンシップ B(2)	応用理工学 PBL(2) 科学英語表現法(2)		
	共通専門科目群	物理数学 1(2) 工学セミナー(1)	物理数学 2(2) 生体情報工学(2)	材料力学基礎(2)	電気回路基礎(2)	機械力学基礎(2)	CAD 演習(1) 現代制御(2)		
	プログラム専門科目	機械製図(1) プログラミング E (2)	機械設計製図(1)	応用データサイエンス(2) 機械工作法(2) 電気工学概論(2)	材料力学(2) 熱力学 1(2) 機械設計学基礎(2) 機械工学実習(2) 機械計測工学(2)	伝熱学 1(2) 流体工学(2) システム制御(2) 機械工学実験 1(2) 機械応用設計解析(2) 計算力学(2) 機械加工学(2) メカトロニクス(2)	機械力学(2) 熱力学 2(2) 流体機械(2) 機械工学実験 2(2) 機械材料学(2) 伝熱学 2(2)	卒業研究(8) [通年] テクニカルイングリッシュ(1)	卒業研究 [通年]
	展開サブプロ グラム科目					副専門科目 1 (2)	副専門科目 2 (2)		
単位	開講単位数：24 必修・選択必修：18 選択：6 学期履修単位数：20	開講単位数：25 必修・選択必修：13 選択：12 学期履修単位数：18	開講単位数：25 必修・選択必修：14 選択：11 学期履修単位数：20	開講単位数：27 必修・選択必修：17 選択：10 学期履修単位数：20	開講単位数：28 必修・選択必修：18 選択：10 学期履修単位数：18	開講単位数：19 必修・選択必修：13 選択：6 学期履修単位数：19	開講単位数：11 必修・選択必修：9 選択：2 学期履修単位数：9	開講単位数：159 必修・選択必修：102 選択：57 卒業要件単位数：124	

卒業要件 教養科目：26単位、専門科目 98単位 合計：124単位以上（展開サブプログラム：4単位必修）

6. 知能機械システムプログラム

赤字：必修科目、青字：選択必修、黒字：選択科目、()内の数字は単位数、Q1～Q4：第1～4：クォーター開講科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	英語 I (1) × 2 理工学導入(2) データサイエンス入門(1)Q2 大分大学入門(1)Q1 教養科目(2) × 2 スポーツ文化科学(2)	英語 I (1) × 2 理工学入門A(2)・C(2) ほか ちらか選択必修 学生生活入門(1) キャリア形成入門(1) 教養科目(2) × 2	英語 II (1)	英語 II (1) 地域ブランディングA(2)				
26単位	全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)、主題「福祉・地域」から1科目(2)以上を含むこと。							
専門教育科目	基礎教育科目	基礎解析学1(2) 基礎代数学1(2) 力学(2)	基礎解析学2(2) 基礎代数学2(2) データサイエンス(2)	基礎解析学3(2) 基礎代数学3(2) 言語思想論(2) 微分方程式(2) 複素関数(2)	ベクトル解析(2) フーリエ解析(2) 確率・統計解析(2)			
	共通専門科目			線形システム論(2) 熱力学基礎・演習(3) 流体力学基礎(2) インターンシップA(1)	基礎理工学PBL(2)	技術者倫理(2) インターンシップB(2)	応用理工学PBL(2) 科学英語表現法(2) 非線形システム論(2)	
	プログラム群 共通専門科目	物理数学1(2) 工学セミナー(1)	物理数学2(2) 生体情報工学(2) 電気回路基礎(2)	材料力学基礎(2)		現代制御(2) 機械力学基礎(2)	CAD演習(1)	
	プログラム専門科目	プログラミングF(2)		機械製図基礎(1) 電気回路(2) 電子回路(2) 電磁気学1(2) 制御工学基礎(2)	材料力学応用(2) 機械工学実験(2) 電子回路(2) 電磁気学2(2) 制御工学(2) バイオメカニズム(2) 数値解析基礎(2)	機器設計工学(2) 機構力学(2) 電気電子工学実験(2) 電気機器1(2) 計測工学(2) 信号処理(2) スポーツ工学(2) 身体運動機能学(2)	ロボット工学(2) 運動計測法(2) 計測制御工学実験(2) 電気機器2(2) 電力システム工学(2) 数値解析応用(2) 医療データ解析・活用論(1)	卒業研究(8)【通年】知機全 卒業研究【通年】知機全
	展開サブプログラム科目					副専門科目1(2)	副専門科目2(2)	
単位	開講単位数：23 必修・選択必修：17 選択：6 学期履修単位：23	開講単位数：22 必修・選択必修：16 選択：6 学期履修単位：22	開講単位数：28 必修・選択必修：16 選択：12 学期履修単位：22	開講単位数：25 必修・選択必修：17 選択：8 学期履修単位：21	開講単位数：26 必修・選択必修：16 選択：10 学期履修単位：16	開講単位数：22 必修・選択必修：10 選択：12 学期履修単位：12	開講単位数：8 必修・選択必修：8 選択：0 学期履修単位：8	開講単位数：154 必修・選択必修：100 選択：54 卒業要件単位：124

卒業要件 教養科目：26単位、専門科目 98単位 合計：124単位以上（副専門科目：4単位必修）

7. 生命・物質化学プログラム

赤字：必修科目、青字：選択必修、黒字：選択科目、()内の数字は単位数、Q1～Q4：第1～4：クォーター開講科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	英語 1 (1) × 2 理工学導入 (2) データサイエンス入門 (1) Q2 大分大学入門 (1) Q1 スポーツ文化科学 (2) 教養科目 (2)	英語 I (1) × 2 理工学入門 (2) A・B (2) はどちらか選択必修 学生生活入門 (1) キャリア形成入門 (1) 教養科目 (2)	英語 II (1) 地域ブランディング B (2)	英語 II (1)	教養科目 (2)	地域ブランディング A (2)			
26単位	全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)、主題「福祉・地域」から1科目(2)以上を含むこと。								
専門教育科目	基礎教育科目	基礎解析学 1 (2) 基礎代数学 1 (2) 力学 (2) 原子と分子 (2)	データサイエンス (2) 基礎解析学 2 (2) 基礎代数学 2 (2) 物質の状態と変化 (2)	基礎解析学 3 (2) 基礎代数学 3 (2)					
	共通専門科目	起業家養成講座 (2)	化学への扉 (2) 物理学実験 (2) 基礎化学実験 (2) 基礎物理学 (2) 基礎地学 (2) インターンシップ A (1)	基礎理工学 PBL (2)	技術者倫理 (2) 機器分析 (2) インターンシップ B (2)	応用理工学 PBL (2) 遺伝子科学 (2)	生物多様性学 (2) 環境地球科学 (2) 大気海洋科学 (2)	科学英語表現法 (2) 環境生物学 (2) 分子生物学 (2)	
	プログラム専門科目	分析化学 (2) プログラミング G (2)	有機化学 1 (2) 生物学 (2)	応用化学実験 1 (4) 【通年】 無機化学 1 (2) 有機化学 2 (2) 物理化学 1 (2) 応用化学特別講義 I (1) 化学概説 (2)	応用化学実験 1 【通年】 物理化学 2 (2) 生物化学 (2) 有機化学 3 (2) 有機機能化学 (2) 無機化学 2 (2) 物理化学 3 (2) 応用化学特別講義 II (1) 発酵化学 (2)	応用化学実験 2 (6) 【通年】 高分子化学 (2) 化学工学 (2) 食品衛生化学 1 (1) Q1 食品衛生化学 2 (1) Q2 電気化学 (2) 分子分光学 (2) 応用化学特別講義 III (1) 機能物質科学 (2)	応用化学実験 2 【通年】 反応有機化学 (2) 科学概論 (2) 触媒化学 (2) 有機工業化学 (2) 無機工業化学 (2) 食品化学工学 (2) 応用化学特別講義 IV (1)	卒業研究 (8) 【通年】 論文購読演習 1 (1)	卒業研究 【通年】 論文購読演習 2 (1)
	展開サブプロ			副専門科目 1 (2)	副専門科目 2 (2)				
単位	開講単位数：24 必修・選択必修：14 選択：10 学期履修単位：20	開講単位数：22 必修・選択必修：10 選択：12 学期履修単位：16	開講単位数：31 必修・選択必修：13 選択：18 学期履修単位：21	開講単位数：20 必修・選択必修：9 選択：11 学期履修単位：19	開講単位数：27 必修・選択必修：14 選択：13 学期履修単位：18	開講単位数：19 必修・選択必修：2 選択：17 学期履修単位：16	開講単位数：17 必修・選択必修：9 選択：8 学期履修単位：11	開講単位数：167 必修・選択必修：72 選択：95 卒業要件単位：124	

卒業要件 教養科目：26単位、専門科目 98単位 合計：124単位以上（副専門科目：4単位必修）

8. 地域環境科学プログラム

赤字：必修科目、青字：選択必修、黒字：選択科目、()内の数字は単位数、Q1～Q4：第1～4：クォーター開講科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	英語Ⅰ(1)×2 理工学導入(2) データサイエンス入門(1)Q2 大分大学入門(1)Q1 教養科目(2)×2	英語Ⅰ(1)×2 理工学入門A(2)・B(2) ほど ちから選択必修 学生生活入門(1) キャリア形成入門(1) 教養科目(2)×2	英語Ⅱ(1) 教養科目(2)	英語Ⅱ(1)	教養科目(2)				
26単位	全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)、主題「福祉・地域」から1科目(2)以上を含むこと。								
専門教育科目	基礎教 育科目	基礎解析学1(2) 基礎代数学1(2) 力学(2) 原子と分子(2)	基礎解析学2(2) 基礎代数学2(2) データサイエンス(2) 物質の状態と変化(2)	基礎解析学3(2) 基礎代数学3(2) 微分方程式(2) 複素関数(2)	ベクトル解析(2) フーリエ解析(2) 確率・統計解析(2)				
	共通専門科目	基礎物理学(2) 基礎地学(2) 図学(2)	基礎生物学(2) 基礎化学(2)	環境地球科学(2) 物理学実験(2) 生物学実験(2) インターンシップA(1)	基礎理工学PBL(2) 環境生物学(2) 宇宙物理概論(2) 地学実験(2) 分子生物学(2)	大気海洋科学(2) 生物多様性学(2) インターンシップB(2)	応用理工学PBL(2) 科学英語表現法(2) 遺伝子科学(2)		
	共通専門科目群	地域環境科学キャリア開発(1) プログラミングHI(2) 建築構法(2)	リスクと環境(1) 建築製図1(2)	住居論(2) 建築環境工学1(2) 建築構造力学2(2) 建築材料(2) 建築材料力学(2) 建築構造力学1(2) Q1	地域安全システム工学(2) 建築計画1(2) 建築環境工学2(2) 建築構造解析(2) 建築構造設計1(2) 木質構造(2)	建設技術者倫理(2) 建築計画2(2) 建築設備計画1(2) 鉄筋コンクリート構造(2) 建築耐震システム(2) 建築環境シミュレーション(2) 鉄骨構造(2)	建築基礎構造(2) 地域デザイン(2)		
	プログラム専門科目	地域資源フィールドワーク(2)	土木工学概論(2)	環境化学概論(2) 地域環境科学特別講義1(1) 構造工学(2) 地盤工学(2) 都市・地域計画(2)	地球化学(2) 水工学(2) 測量学(2) 測量実習(1) 土木実験演習1(2)	地域環境科学ワークショップ(2)[通年] 地域環境科学特別講義2(1) クライシスマネジメント論(2) 土木実験演習2(2) 減災デザイン・コミュニケーション(2) 応用生物学(2)	地域環境科学ワークショップ(2)[通年] 地方自治と減災政策(2)	卒業研究(8)[通年] 外書講読(2)[通年]	卒業研究[通年] 外書講読[通年]
	展開サブプログラム科目			副専門科目1(2)		副専門科目2(2)			
単位	開講単位数：31 必修・選択必修：19 選択：12 学期履修単位：23	開講単位数：27 必修・選択必修：17 選択：10 学期履修単位：23	開講単位数：45 必修・選択必修：14 選択：31 学期履修単位：23	開講単位数：40 必修・選択必修：16 選択：24 学期履修単位：22	開講単位数：35 必修・選択必修：15 選択：20 学期履修単位：19	開講単位数：16 必修・選択必修：4 選択：12 学期履修単位：4	開講単位数：10 必修・選択必修：10 選択：0 学期履修単位：10	開講単位数：204 必修・選択必修：95 選択：109 卒業要件単位：124	

卒業要件 教養科目：26単位、専門科目 98単位 合計：124以上(副専門科目：4単位必修)

9. 建築学プログラム

赤字：必修科目，青字：選択必修，黒字：選択科目，()内の数字は単位数，Q1～Q4：第1～4：クォーター開講科目，△：S選択科目

年次 区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目 26単位	英語Ⅰ(1)×2 理工学導入(2) データサイエンス入門(1)Q2 大分大学入門(1)Q1 教養科目(2)×2	英語Ⅰ(1)×2 理工学入門A(2)・B(2)ほど ちらか選択必修 学生生活入門(1) キャリア形成入門(1) 教養科目(2)×2	英語Ⅱ(1) 地域ブランディングB(2)	英語Ⅱ(1) 地域ブランディングA(2)				
全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)，主題「福祉・地域」から1科目(2)以上を含むこと。								
基礎教育科目	基礎解析学1(2) 基礎代数学1(2) 力学(2) 原子と分子(2)	基礎解析学2(2) 基礎代数学2(2) データサイエンス(2) 物質の状態と変化(2)	基礎解析学3(2) 基礎代数学3(2) 言語思想論(2) 微分方程式(2) 複素関数(2)	ベクトル解析(2) フーリエ解析(2) 確率・統計解析(2)				
共通専門科目		波動と光(2) 化学への扉(2) 基礎化学(2) 基礎生物学(2)	物理学実験(2) インターンシップA(1)	基礎理工学PBL(2)	応用理工学PBL(2)			
共通専門科目群	建築構法(2) プログラミングHI(2) 地域環境科学キャリア開発(1), Q1	建築構造力学1(2) 建築製図1(2) リスクと環境(1) Q3	住居論(2) 建築環境工学1(2) 建築構造力学2(2) 建築材料(2) 建築材料力学(2)	建築計画1(2) 建築環境工学2(2) 建築構造解析(2) 建築構造設計1(2) 木質構造(2) 地域安全システム工学(2)	建築計画2(2) 建築設備計画1(2) 鉄筋コンクリート構造(2) 鉄骨構造(2) 建設技術者倫理(2) △建築耐震システム(2) △建築環境シミュレーション(2)			
プログラム専門科目	建築図学(2)	△建築構造力学1演習(1) △日本建築史(2)隔年開講 △西洋建築史 隔年開講	建築製図2(2) △建築環境工学演習1(1) △測量学実習(1.5)	建築計画設計演習1(1.5), Q3 建築計画設計演習2(1.5), Q4 △建築環境工学演習2(1) △日本建築史 隔年開講 △西洋建築史(2)隔年開講	建築計画設計演習3(1.5), Q1 建築計画設計演習4(1.5), Q2 建築法規(2) 建築施工学(2) 都市計画(2)	建築ワークショップ(2) 卒業研究(8) [通年]	卒業研究 [通年]	
展開サブプログラム科目			副専門科目1(2)		副専門科目2(2)			
単位	開講単位数：25 必修・選択必修：18 S選択：0 A選択：7 学期履修単位：24	開講単位数：34 必修・選択必修：14 S選択：3 A選択：17 学期履修単位：22	開講単位数：32.5 必修・選択必修：19 S選択：2.5 A選択：11 学期履修単位：22	開講単位数：29 必修・選択必修：16 S選択：3 A選択：10 学期履修単位：20	開講単位数：27 必修・選択必修：21 S選択：4 A選択：2 学期履修単位：22	開講単位数：21 必修・選択必修：4 S選択：17 A選択：0 学期履修単位：8	開講単位数：8 必修・選択必修：8 S選択：0 A選択：0 学期履修単位：8	開講単位数：176.5 必修・選択必修：100 S選択：29.5 A選択：47 卒業要件単位：126

卒業要件 教養科目：26単位，専門科目 100単位 合計：126単位以上（副専門科目：4単位必修）

1. 数理科学プログラム

科目区分		単位数		必要単位数
		必修	A選択	
教養教育科目	・全学共通科目 スポーツ文化科学 ・日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	大分大学入門	1	左記を含む 26 単位以上 ^{※2}
		理工学導入	2	
		データサイエンス入門	1	
		理工学入門B ^{※1}	(2)	
		理工学入門C ^{※1}	(2)	
	外国語科目	「英語 I」	4	
		「英語 I I」	2	
専門教育科目	基盤教育科目	4	18	必修 80 単位, A選択 18 単位を 含む 98 単位以上
	共通専門科目	10		
	プログラム群共通専門科目	12		
	プログラム専門科目	50		
	副専門科目 ^{※3}	4		
卒業に必要な最低修得単位				124 単位以上
累積成績指標				1.0 以上

※1 「理工学入門B」, 「理工学入門C」はどちらか選択必修。

※2 教養教育科目 26 単位には, 「大分を創る」(テーマ) 科目 2 単位以上,
主題「福祉・地域」2 単位以上を含むこと。

※3 選択必修科目。専門教育科目の「基盤教育科目」, 「共通専門科目」,
「プログラム群共通専門科目」, 「プログラム専門科目」の自プログラムの
卒業要件とならない科目で, 副専門科目対象科目の中から 4 単位。

2. 知能情報システムプログラム

科目区分			単位数		必要単位数
			必修	A選択	
教養教育科目	・ 全学共通科目 スポーツ文化科学 ・ 日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	大分大学入門	1	/	左記を含む 26 単位以上 ^{※2}
		理工学導入	2		
		データサイエンス入門	1		
		理工学入門B ^{※1}	(2)		
		理工学入門C ^{※1}	(2)		
	外国語科目	「英語 I」	4		
		「英語 I I」	2		
専門教育科目	基盤教育科目	12	13	必修 85 単位, A選択 13 単位を 含む 98 単位以上	
	共通専門科目	10			
	プログラム群共通専門科目	22			
	プログラム専門科目	37			
	副専門科目 ^{※3}	4			
卒業に必要な最低修得単位					124 単位以上
累積成績指標					1.0 以上

※1 「理工学入門B」, 「理工学入門C」はどちらか選択必修。

※2 教養教育科目 26 単位には, 「大分を創る」(テーマ) 科目 2 単位以上,
主題「福祉・地域」2 単位以上を含むこと。

※3 選択必修科目。専門教育科目の「基盤教育科目」, 「共通専門科目」,
「プログラム群共通専門科目」, 「プログラム専門科目」の自プログラムの
卒業要件とならない科目で, 副専門科目対象科目の中から 4 単位。

3. 物理学連携プログラム

科目区分			単位数		必要単位数
			必修	A選択	
教養教育科目	・全学共通科目 スポーツ文化科学 ・日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	大分大学入門	1	/	左記を含む 26 単位以上 ^{※2}
		理工学導入	2		
		データサイエンス入門	1		
		理工学入門B ^{※1}	(2)		
		理工学入門C ^{※1}	(2)		
	外国語科目				
		「英語 I」	4		
		「英語 I I」	2		
専門教育科目	基盤教育科目		24	13	必修 85 単位, A選択 13 単位 を含む 98 単位 以上
	共通専門科目		18		
	プログラム群共通専門科目		14		
	プログラム専門科目		25		
	副専門科目 ^{※3}		4		
卒業に必要な最低修得単位					124 単位以上
累積成績指標					1.0 以上

※1 「理工学入門B」, 「理工学入門C」はどちらか選択必修。

※2 教養教育科目 26 単位には, 「大分を創る」(テーマ) 科目 2 単位以上,
主題「福祉・地域」2 単位以上を含むこと。

※3 選択必修科目。専門教育科目の「基盤教育科目」, 「共通専門科目」,
「プログラム群共通専門科目」, 「プログラム専門科目」の自プログラムの
卒業要件とならない科目で, 副専門科目対象科目の中から 4 単位。

4. 電気エネルギー・電子工学プログラム

科目区分			単位数		必要単位数
			必修	A選択	
教養教育科目	・ 全学共通科目 スポーツ文化科学 ・ 日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	大分大学入門	1	/	左記を含む 26 単位以上 ^{※2}
		理工学導入	2		
		データサイエンス入門	1		
		理工学入門A ^{※1}	(2)		
		理工学入門C ^{※1}	(2)		
	外国語科目	「英語 I」	4		
		「英語 I I」	2		
専門教育科目	基盤教育科目	16	14	必修 84 単位, A選択 14 単位を 含む 98 単位以上	
	共通専門科目	8			
	プログラム群共通専門科目	18			
	プログラム専門科目	38			
	副専門科目 ^{※3}	4			
卒業に必要な最低修得単位					124 単位以上
累積成績指標					1.0 以上

※1 「理工学入門A」, 「理工学入門C」はどちらか選択必修。

※2 教養教育科目 26 単位には, 「大分を創る」(テーマ) 科目 2 単位以上,
主題「福祉・地域」2 単位以上を含むこと。

※3 選択必修科目。専門教育科目の「基盤教育科目」, 「共通専門科目」,
「プログラム群共通専門科目」, 「プログラム専門科目」の自プログラムの
卒業要件とならない科目で, 副専門科目対象科目の中から 4 単位。

5. 機械工学プログラム

科目区分			単位数		必要単位数
			必修	A選択	
教養教育科目	・全学共通科目 スポーツ文化科学 ・日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	大分大学入門	1	/	左記を含む 26 単位以上 ^{※2}
		理工学導入	2		
		データサイエンス入門	1		
		理工学入門A ^{※1}	(2)		
		理工学入門C ^{※1}	(2)		
	外国語科目				
		「英語 I」	4		
		「英語 I I」	2		
専門教育科目	基盤教育科目		16	8	必修 90 単位, A選択 8 単位 を含む 98 単位 以上
	共通専門科目		15		
	プログラム群共通専門科目		12		
	プログラム専門科目		43		
	副専門科目 ^{※3}		4		
卒業に必要な最低修得単位					124 単位以上
累積成績指標					1.0 以上

※1 「理工学入門A」, 「理工学入門C」はどちらか選択必修。

※2 教養教育科目 26 単位には, 「大分を創る」(テーマ) 科目 2 単位以上,
主題「福祉・地域」2 単位以上を含むこと。

※3 選択必修科目。専門教育科目の「基盤教育科目」, 「共通専門科目」,
「プログラム群共通専門科目」, 「プログラム専門科目」の自プログラムの
卒業要件とならない科目で, 副専門科目対象科目の中から 4 単位。

6. 知能機械システムプログラム

科目区分			単位数		必要単位数
			必修	A選択	
教養教育科目	・ 全学共通科目 スポーツ文化科学 ・ 日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	大分大学入門	1	/	左記を含む 26 単位以上 ^{※2}
		理工学導入	2		
		データサイエンス入門	1		
		理工学入門A ^{※1}	(2)		
		理工学入門C ^{※1}	(2)		
	外国語科目	「英語 I」	4		
		「英語 I I」	2		
専門教育科目	基盤教育科目	16	10	必修 88 単位, A選択 10 単位を 含む 98 単位以上	
	共通専門科目	8			
	プログラム群共通専門科目	13			
	プログラム専門科目	47			
	副専門科目 ^{※3}	4			
卒業に必要な最低修得単位					124 単位以上
累積成績指標					1.0 以上

※1 「理工学入門A」, 「理工学入門C」はどちらか選択必修。

※2 教養教育科目 26 単位には, 「大分を創る」(テーマ) 科目 2 単位以上,
主題「福祉・地域」2 単位以上を含むこと。

※3 選択必修科目。専門教育科目の「基盤教育科目」, 「共通専門科目」,
「プログラム群共通専門科目」, 「プログラム専門科目」の自プログラムの
卒業要件とならない科目で, 副専門科目対象科目の中から 4 単位。

7. 生命・物質化学プログラム

科目区分			単位数		必要単位数
			必修	A選択	
教養教育科目	・全学共通科目 スポーツ文化科学 ・日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	大分大学入門	1	/	左記を含む 26 単位以上 ^{※2}
		理工学導入	2		
		データサイエンス入門	1		
		理工学入門A ^{※1}	(2)		
		理工学入門B ^{※1}	(2)		
	外国語科目				
		「英語 I」	4		
		「英語 I I」	2		
専門教育科目	基盤教育科目		6	38	必修 60 単位, A選択 38 単位 を含む 98 単位 以上
	共通専門科目		8		
	プログラム群共通専門科目		/		
	プログラム専門科目		42		
	副専門科目 ^{※3}		4		
卒業に必要な最低修得単位					124 単位以上
累積成績指標					1.0 以上

※1 「理工学入門A」, 「理工学入門B」はどちらか選択必修。

※2 教養教育科目 26 単位には, 「大分を創る」(テーマ) 科目 2 単位以上,
主題「福祉・地域」2 単位以上を含むこと。

※3 選択必修科目。専門教育科目の「基盤教育科目」, 「共通専門科目」,
「プログラム群共通専門科目」, 「プログラム専門科目」の自プログラムの
卒業要件とならない科目で, 副専門科目対象科目の中から 4 単位。

8. 地域環境科学プログラム

科目区分			単位数		必要単位数
			必修	A選択	
教養教育科目	・全学共通科目 スポーツ文化科学 ・日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	大分大学入門	1	/	左記を含む 26 単位以上 ^{※2}
		理工学導入	2		
		データサイエンス入門	1		
		理工学入門 A ^{※1}	(2)		
		理工学入門 B ^{※1}	(2)		
	外国語科目	「英語 I」	4		
		「英語 I I」	2		
専門教育科目	基盤教育科目	10	15	必修 83 単位, A選択 15 単位 を含む 98 単位 以上	
	共通専門科目	18			
	プログラム群共通専門科目	8			
	プログラム専門科目	43			
	副専門科目 ^{※3}	4			
卒業に必要な最低修得単位					124 単位以上
累積成績指標					1.0 以上

※1 「理工学入門 A」, 「理工学入門 B」はどちらか選択必修。

※2 教養教育科目 26 単位には, 「大分を創る」(テーマ) 科目 2 単位以上,
主題「福祉・地域」2 単位以上を含むこと。

※3 選択必修科目。専門教育科目の「基盤教育科目」, 「共通専門科目」,
「プログラム群共通専門科目」, 「プログラム専門科目」の自プログラムの
卒業要件とならない科目で, 副専門科目対象科目の中から 4 単位。

9. 建築学プログラム

科目区分			単位数			必要単位数
			必修	A 選 択	S 選 択	
教養教育科目	・全学共通科目 スポーツ文化科学 ・日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	大分大学入門	1	/	/	左記を含む 26 単位以上 ^{※2}
		理工学導入	2			
		データサイエンス入門	1			
		理工学入門 A ^{※1}	(2)			
		理工学入門 B ^{※1}	(2)			
	外国語科目	「英語 I」	4			
	「英語 I I」	2				
専門教育科目	基盤教育科目	16	4	/	必修 88 単位, 基盤教育科目 及び共通専門 科目の A 選択 4 単位, プログラ ム群共通専門 科目及びプロ グラム専門科 目の S 選択 8 単位を含む 100 単位以上	
	共通専門科目	4				
	プログラム群共通専門科目	38	8			
	プログラム専門科目	26				
	副専門科目 ^{※3}	4	/			
卒業に必要な最低修得単位						126 単位以上
累積成績指標						1.0 以上

※1 「理工学入門 A」, 「理工学入門 B」はどちらか選択必修。

※2 教養教育科目 26 単位には, 「大分を創る」(テーマ) 科目 2 単位以上,
主題「福祉・地域」2 単位以上を含むこと。

※3 選択必修科目。専門教育科目の「基盤教育科目」, 「共通専門科目」,
「プログラム群共通専門科目」, 「プログラム専門科目」の自プログラムの
卒業要件とならない科目で, 副専門科目対象科目の中から 4 単位。

【理工学部】第3年次編入学生の修得すべき単位数について

理工学部教務委員会 令和4年4月1日承認

第3年次編入学生の卒業までに修得すべき単位数及び修得済みと認定する単位数は、次のとおりとする。

編入学生の区分 科目数及び卒業要件単位数				高専又は短大の卒業生		大学2年以上在学 62単位以上修得 (理系)		大学2年以上在学 62単位以上修得 (文系)		大学卒業生(理系学士)		大学卒業生(文系学士)		
				認定単位数	修得すべき単位数	認定単位数	修得すべき単位数	認定単位数	修得すべき単位数	認定単位数	修得すべき単位数	認定単位数	修得すべき単位数	
教養教育科目	・全学共通科目 (ゼミナール科目を含む)	必修:「大分大学入門」1単位, 「データサイエンス入門」1単位	2単位	左記を含む 20単位	20単位	0	20単位 ※1	0	20単位 ※1	0	20単位	0	20単位	0
	・身体・スポーツ科学科目 (スポーツ文化科学)	必修:「理工学導入」	2単位											
	・日本語・日本事情科目 (日本人は履修不可)	選択必修:「理工学入門A」「理工学入門B」「理工学入門C」	2単位											
	・短期留学プログラム (IPOU)科目	・上記20単位には「大分を創る」(テーマ)科目から選択2単位、主題「福祉・地域」から選択2単位を含むこと。												
外国語科目	必修:「英語Ⅰ」	4単位	4	0	4 ※1	0 ※1	4 ※1	0 ※1	4	0	4	0		
	必修:「英語Ⅱ」	2単位	2	0	2 ※1	0 ※1	2 ※1	0 ※1	2	0	2	0		
専門教育科目	基盤教育科目	必修と選択の合計	プログラムにより異なる	左記により認定されたもの以外の科目に相当する単位数	・2年次までに開講する必修科目については一括認定する ・選択科目については編入学前の履修状況を考慮して個別に科目及び単位数を認定する	左記により認定されたもの以外の科目に相当する単位数	・2年次までに開講する必修科目については一括認定する ・選択科目については編入学前の履修状況を考慮して個別に科目及び単位数を認定する	左記により認定されたもの以外の科目に相当する単位数	・2年次までに開講する必修科目については一括認定する ・選択科目については編入学前の履修状況を考慮して個別に科目及び単位数を認定する	左記により認定されたもの以外の科目に相当する単位数	・2年次までに開講する必修科目については一括認定する ・選択科目については編入学前の履修状況を考慮して個別に科目及び単位数を認定する	左記により認定されたもの以外の科目に相当する単位数	・2年次までに開講する必修科目については一括認定する ・選択科目については編入学前の履修状況を考慮して個別に科目及び単位数を認定する	左記により認定されたもの以外の科目に相当する単位数
	共通専門科目・プログラム群共通専門科目・プログラム専門科目													
	必修:「基礎理工学PBL」		2	0	2	0	2	0	2	0	2	0		
	必修:「副専門科目1」		2	0	2	0	2	0	2	0	2	0		
	必修:「副専門科目2」		2	0	2	0	2	0	2	0	2	0		
合計			プログラムにより異なる (124~126単位)	プログラムにより異なる (124~126単位)	プログラムにより異なる (124~126単位)	プログラムにより異なる (124~126単位)	プログラムにより異なる (124~126単位)	プログラムにより異なる (124~126単位)	プログラムにより異なる (124~126単位)	プログラムにより異なる (124~126単位)	プログラムにより異なる (124~126単位)	プログラムにより異なる (124~126単位)		

備考1: ※1 編入学前の履修状況によりこれによりがたい場合は、個別に科目及び単位数を認定、修得する。

○機械工学プログラム

赤字：必修科目、青字：選択必修、黒字：選択科目、()内の数字は単位数、Q1~Q4：第1~4：クォーター開講科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	必修6単位認定 選択4単位認定	必修2単位認定 選択必修2単位認定 選択4単位認定	必修1単位認定 選択4単位認定	必修1単位認定 選択2単位認定					
26単位一括認定	全学共通科目の「大分を創る」科目群から1科目(2)、主題「福祉・地域」から1科目(2)については一括認定に含める。								
専門教育科目	基礎教育科目	基礎解析学1(2)【認定】 基礎代数学1(2)【認定】 力学(2)【認定】 原子と分子(2)【個別認定】	基礎解析学2(2)【認定】 基礎代数学2(2)【認定】 データサイエンス(2)【認定】 物質の状態と変化(2)【個別認定】	基礎解析学3(2)【認定】 基礎代数学3(2)【認定】 微分方程式(2)【個別認定】 複素関数(2)【個別認定】	ベクトル解析(2)【個別認定】 フーリエ解析(2)【個別認定】 確率・統計解析(2)【個別認定】				
	共通専門科目			基礎理工学PBL(2)【認定】 流体力学(2)【個別認定】 計算物理学1(2)【個別認定】	技術者倫理(2) 材料と弾性の力学(2)	応用理工学PBL(2) 科学英語表現法(2)			
	共通プログラム群	物理数学1(2)【個別認定】 工学セミナー(1)【個別認定】	物理数学2(2)【個別認定】 生体情報工学(2)【個別認定】	材料力学基礎(2)【個別認定】		機械力学基礎(2)	CAD演習(1) 電気回路基礎(2)	現代制御(2)	
	プログラム専門科目	機械製図(1)【個別認定】 プログラミングE(2)【個別認定】	機械設計製図(1)【個別認定】	機械工作法(2)【個別認定】	材料力学(2)【個別認定】 熱力学1(2)【個別認定】 機械設計学基礎(2)【個別認定】 機械工学実習(2)【個別認定】	伝熱学1(2) 流体工学(2) システム制御(2) 機械工学実験1(2) 機械応用設計解析(2) 応用データサイエンス(2) 計算力学(2) 機械加工学(2) メカトロニクス(2)	機械力学(2) 熱力学2(2) 流体機械(2) 機械工学実験2(2) 機械計測工学(2) 機械材料学(2) 伝熱学2(2)	卒業研究(8)【通年】 テクニカルレイングリッシュ(1)	卒業研究【通年】
	展開サブプロ			副専門科目1(2)【認定】	副専門科目2(2)【認定】				
単位	開講単位数：24 認定単位：16 個別認定単位：8 学期認定単位：20	開講単位数：25 認定単位：14 個別認定単位：11 学期認定単位：18	開講単位数：25 認定単位：11 個別認定単位：14 学期認定単位：17	開講単位数：25 認定単位：7 個別認定単位：18 学期認定単位：11	開講単位数：26 必修・選択必修：18 選択：8 学期履修単位数：24	開講単位数：21 必修・選択必修：15 選択：6 学期履修単位数：21	開講単位数：13 必修・選択必修：9 選択：4 学期履修単位数：13	開講単位数：159 必修・選択必修：102 選択：57 卒業要件単位：124	

卒業要件 教養科目：26単位、専門科目 98単位 合計：124単位以上（展開サブプログラム：4単位必修）

資料 10-1

教育実習先一覧

	教育実習受入学校名	所在地	受入数
中学校	大分市立上野ヶ丘中学校	大分県大分市	2
	大分市立南大分中学校	大分県大分市	3
	大分市立王子中学校	大分県大分市	4
	大分市立植田東中学校	大分県大分市	2
	大分市立大分西中学校	大分県大分市	3
	大分市立滝尾中学校	大分県大分市	4
	大分市立明野中学校	大分県大分市	3
	大分市立鶴崎中学校	大分県大分市	3
	大分市立大東中学校	大分県大分市	7
	大分市立戸次中学校	大分県大分市	1
	大分市立植田中学校	大分県大分市	2
	大分市立植田南中学校	大分県大分市	3
	大分市立大在中学校	大分県大分市	2
	大分市立坂ノ市中学校	大分県大分市	1
	大分市立神崎中学校	大分県大分市	1
	大分市立碩田学園（後）	大分県大分市	4
高等学校	大分県立大分上野丘高等学校	大分県大分市	2
	大分県立大分舞鶴高等学校	大分県大分市	4
	大分県立大分豊府高等学校	大分県大分市	1
	大分県立大分西高等学校	大分県大分市	1
	大分県立大分鶴崎高等学校	大分県大分市	2
	大分県立大分雄城台高等学校	大分県大分市	1
	大分県立中津南高等学校	大分県中津市	1
	大分県立高田高等学校	大分県豊後高田市	1
	大分県立杵築高等学校	大分県杵築市	3
	大分県立別府鶴見丘高等学校	大分県別府市	2
	大分県立三重総合高等学校	大分県豊後大野市	1
	大分県立竹田高等学校	大分県竹田市	2
	大分県立臼杵高等学校	大分県臼杵市	2
	大分高等学校	大分県大分市	2
	大分東明高等学校	大分県大分市	1

※受入数は予定であり、毎年度協議の上決定する。

資料10-2

介護等体験実習先一覧

介護等体験受入施設名	所在地	受入数
あいわ園	大分市	2
大分こども発達支援センター やすらぎ	大分市	1
大分市老人デイサービスセンターさざんか	大分市	1
光明園デイサービスセンター	大分市	1
四季の里	別府市	1
すくすく・いきいき村	大分市	5
ステップ「おおいた」	大分市	1
太平の里デイサービスセンター	大分市	1
多機能型事業所 明日の輪 就労継続支援	大分市	2
築輪作業所	大分市	2
特別養護老人ホーム アイリスおおいた	大分市	2
特別養護老人ホーム心助園	杵築市	1
特別養護老人ホームGreenガーデン南大分	大分市	2
ニューフレンドひまわり	大分市	1
はなぞのデイサービスセンター	大分市	5
ひまわりの家	大分市	1
ひまわり畑	大分市	2
湯屋すくすく・いきいき館	大分市	3
夢啓（ゆめひらく）	大分市	2
デイサービスセンターみつば苑	豊後大野市	1
盲養護老人ホーム三国寮	豊後大野市	1
養護老人ホーム常楽荘	豊後大野市	1

※受入数は予定であり、毎年度協議の上決定する。

	企業名	所在地 (県内は市町村名 で記載)	受入予 定人数
1	(株)石井工作研究所	大分市	1
2	(有) ヴィン設計工房	大分市	2
3	大分県産業科学技術センター	大分市	2
4	大分県庁	大分市	1
5	大分大学	大分市	1
6	(有) 東和テック	大分市	2
7	日本製鉄(株)	大分市	1
8	(株) 平和建設	大分市	2
9	(株) 松井設計	大分市	1
10	松田周作建築設計事務所	大分市	6
11	DABURA.m (株)	別府市	2
12	(株)デンケン	由布市	2
13	フンドーキン醤油(株)	臼杵市	3
14	(株) 戸高鋳業社	津久見市	2
15	エスエーアイ構造設計(株)	福岡県	1
16	九州電力(株)	福岡県	2
17	九電ビジネスソリューションズ(株)	福岡県	1
18	(株)熊谷組	福岡県	若干名
19	(株)サニックス・ソフトウェア・デザイン	福岡県	1
20	JR九州システムソリューションズ(株)	福岡県	1
21	高砂倉庫(株)	福岡県	1
22	西日本鉄道(株)	福岡県	1
23	福岡倉庫(株)	福岡県	1
24	(株)ユーシン精機	福岡県	1
25	エコー電子工業(株)	長崎県	1
26	(株)PAL 構造	長崎県	2
27	周南市役所	山口県	1
28	山口県庁	山口県	1
29	日立金属(株)安芸工場	島根県	若干名
30	Panasonic(株)	大阪府	1
31	(株)STNet	愛媛県	1

	企業名	所在地 (県内は市町村名 で記載)	受入予 定人数
32	(株)盛本構造設計事務所	愛知県	2
33	福井県庁	福井県	1
34	メゾンデザイン工房一級建築士事務所	福井県	1
35	メタウォーター(株)	山梨県	2
36	アジア航測(株)	東京都	1
37	(株)イトーキ	東京都	1
38	小川香料(株)	東京都	1
39	ココネ(株)	東京都	1
40	トピー工業(株)	東京都	1
41	日本工営(株)	東京都	1
42	(株)ピラミッド	東京都	1
43	三菱パワー環境ソリューション(株)	神奈川県	1
44	アイリスオーヤマ(株)	宮城県	1

各入試区分ごとの募集の目安及び募集人員

学 科	プログラム	募集人員	募集の目安		プログラムごとの募集人員					
			一般選抜		学校推薦型選抜 I		学校推 薦型選 抜 II	総合型 選抜	特別選抜	
			前期日程	後期日程	一般推薦	サイエンス 推薦			帰国生徒 選抜	私費外国人 留学生選抜
理 工 学 科	数理学プログラム	355	13						若干名	若干名
	知能情報システムプログラム		39	9	5	2		5	若干名	若干名
	物理学連携プログラム		10						若干名	若干名
	電気エネルギー・電子工学プログラム		46	9	8			2	若干名	若干名
	機械工学プログラム		42	10	10			5	若干名	若干名
	知能機械システムプログラム		16	6	4	1		1	若干名	若干名
	生命・物質化学プログラム		37	7	6	2			若干名	若干名
	地域環境科学プログラム		13					2	若干名	若干名
	建築学プログラム		28	8			5	4	若干名	若干名
合計	355	244	49	33	5	5	19			

共通テスト及び個別学力試験の科目一覧

学 科	プログラム	大学入学共通テストで指定する教科・科目名		個別学力検査 (前期日程)		個別学力検査 (後期日程)
		教科	科目名等	教科	科目名等	科目名等
理 工 学 科	物理学連携プログラム	国語 数学	『国語』 『数学Ⅰ・数学A』 『数学Ⅱ・数学B』, 『簿記・ 会計』, 『情報関係基礎』から 1	数学 理科	数学 物理, 化学, 生物から1 (ただし, 第一志 望とする場合は物理必須)	面接
	電気エネルギー・電子工学プログラム					
	機械工学プログラム					
	知能機械システムプログラム					
	建築学プログラム	外国語	『英語』, 『ドイツ語』, 『フランス語』, 『中国語』, 『韓国語』から1			
	数理科学プログラム	国語 数学	『数学Ⅰ・数学A』 『数学Ⅱ・数学B』, 『簿記・ 会計』, 『情報関係基礎』から 1	数学 理科	数学 物理, 化学, 生物から1	面接
	知能情報システムプログラム					
	生命・物質化学プログラム					
地域環境科学プログラム						

※個別学力試験の物理は「物理基礎」「物理」、化学は「化学基礎」「化学」、生物は「生物基礎」「生物」の範囲から出題する。

前期日程及び後期日程の配点

〈前期日程〉

試験区分	国語	地理歴史 公民	数学 I	数学 II	理科	理科	外国語	配点 合計	特色 加点
共通 テスト	150	75	50	50	50	50	200	625	
個別学力 検査			200		200			400	
計	150	75	300		300		200	1025	20

〈後期日程〉

試験区分	国語	地理歴史 公民	数学 I	数学 II	理科	理科	外国語	面接	配点 合計
共通 テスト	125	75	150	150	100	100	200		900
個別学力 検査								200	200
計	125	75	150	150	100	100	200	200	1100

理工学部（改組後）の教員配置

資料 1 3

予算
基盤教育経費

理工学部門：教員組織

予算
基盤研究経費
部局長裁量経費

教育組織

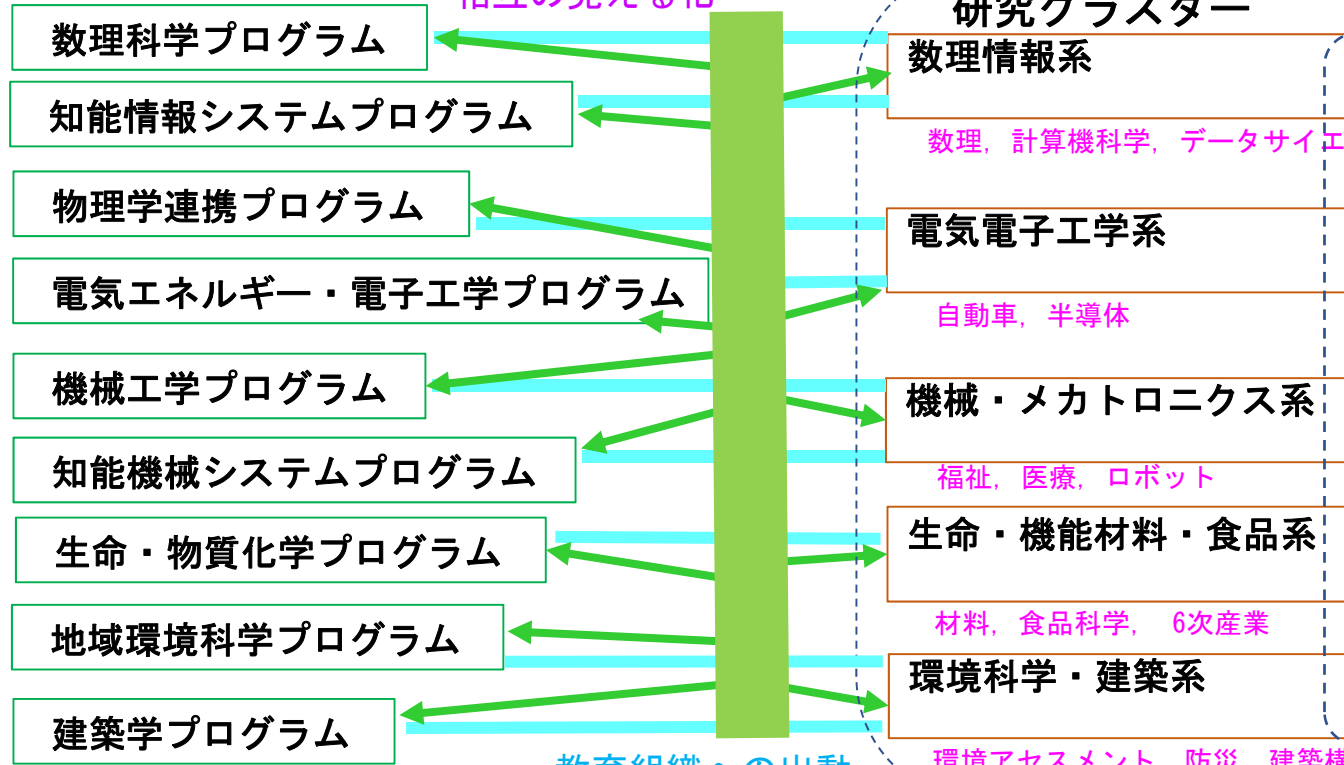
理工学科 プログラム会議

学生と教員との
相互の見える化

研究委員会：クラスタ会議

研究を中心とする組織

大分大学
認定研究
チーム
(BURST)
への展開



各系は
複数の
リサーチ
グループ
から構成
される

学内外
組織と
の連携

外部から：
教員採用，
企業研究者，
外国人共同
研究者

教育組織への出動

研究クラスターの特徴

- ・ 研究リーダーを長とする組織—若手からも登用
- ・ 外部からの協力(国内, 国外)と活性化
- ・ 教員は2つ以上のクラスター所属を目指す
- ・ 地域(大分)での研究会や学会の開催, 存在感
- ・ 教員評価の重視, 昇進への反映

学生：1年次のプログラム群配属と教員組織（研究分野）と連動，
継続的に指導プログラム間の横断的学び，進路の多様化
大学のミッションは研究にあることの自覚，大学院進学率向上
教員：分野を超えた連携強化，教・教分離システムの明確化，意識改革，
研究を重視した組織での活動，新たな研究分野の開拓

国立大学法人大分大学教育職員規程

平成16年4月1日制定

平成16年規程第16号

(趣旨)

第1条 この規程は、教育職員の職務とその責任の特殊性に基づき、国立大学法人大分大学（以下「法人」という。）に勤務する教育職員の任免、分限、懲戒、服務及び研修に関して、国立大学法人大分大学職員就業規則（平成16年規則第5号。以下「就業規則」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において教育職員の職種及び職務は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 教授、准教授、講師（常時勤務の者に限る。）、助教及び助手（以下「大学教員」という。）

ア 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

イ 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

ウ 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

エ 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

オ 助手は、その主担当となる組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

(2) 教育学部附属幼稚園、附属小学校、附属中学校及び附属特別支援学校の校長又は園長（以下「校長等」という。）、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭及び栄養教諭（以下「附属学校教員」という。）

ア 校長等は、教育学部長の命を受けて校務又は園務（以下「校務等」という。）をつかさどる。

イ 教頭は、校長等を助け、校務等を整理し、及び必要に応じ児童、生徒又は幼児の教育又は保育をつかさどる。

ウ 主幹教諭は、校長及び教頭を助け、命を受けて校務の一部を整理し、及び児童又は生徒の教育等をつかさどる。

エ 指導教諭は、児童又は生徒の教育をつかさどり、並びに教諭その他の職員に対して、教育の改善及び充実のために必要な指導及び助言を行う。

オ 教諭は児童、生徒又は幼児の教育又は保育をつかさどる。

カ 養護教諭は、児童、生徒又は幼児の養護をつかさどる。

キ 栄養教諭は、児童、生徒又は幼児の栄養の指導及び管理をつかさどる。

(採用及び昇任)

第3条 大学教員の採用及び昇任のための選考は、別に定める国立大学法人大分大学教員選考規程（平成16年規程第48号）により、教育研究評議会及び人事会議（以下「教育研究評議会等」という。）の審議を経て、学長が行う。

2 前項に規定する選考に関し、人事会議において審議する場合は、当該人事会議の議長は、国立大学法人大分大学における教員選考の基本方針（平成16年9月15日制定）を踏まえ、その選考について人事会議に対して意見を述べるができる。

3 附属学校教員の採用及び昇任の選考は、教育学部門長が別に定めるところにより推薦の上、学長が行う。

(降任及び解雇)

第4条 教育職員の降任及び解雇は、教育研究評議会等の審議を経たものでなければ、その意に反して解雇されることはない。降任についても、また同様とする。

- 2 教育研究評議会等は、前項の審議を行うにあたっては、その者に対し、審議の事由を記載した説明書を交付しなければならない。
- 3 教育研究評議会等は、審議を受ける者が前項の説明書を受領した後14日以内に請求した場合には、その者に対し、口頭又は書面で陳述する機会を与えなければならない。
- 4 教育研究評議会等は、第1項の審議を行う場合において必要があると認めるときは、参考人の出頭を求め、又はその意見を徴することができる。
- 5 第3項に規定するもののほか、第1項の審議に関し必要な事項は、教育研究評議会等が別に定める。

(配置換及び出向)

第5条 大学教員は、教育研究評議会等の審議を経たものでなければ、その意に反して配置換又は出向を命ぜられることはない。

- 2 第4条第2項から第5項までの規定は、前項の審議の場合に準用する。
- 3 第1項の規定にかかわらず、労働契約法（平成19年法律第128号）第18条第1項に規定する期間の定めのない労働契約の締結の申込みを行うことができる教育職員が、学長に対し、当該申込みを行った場合は、教育研究評議会等の審議を経ずに、労働契約の期間の定めのない教育職員に配置換することができるものとする。この場合において、学長は、配置換した旨を教育研究評議会等に報告するものとする。

(休職の期間)

第6条 大学教員が心身の故障のため長期の休養を要する場合の休職の期間については、個々の場合について、人事会議の審議を経て、学長が定める。

- 2 附属学校教員が結核性疾患のため長期の休養を要する場合の休職の期間は、満2年とする。ただし、学長が特に必要があると認めるときは、予算の範囲内でその休職の期間を満3年まで延長することができる。
- 3 前項の規定による休職者には、その休職の期間中、給与の全額を支給する。

(労働契約の期間)

第7条 大学教員は、教育研究評議会等の審議を経て、国立大学法人大分大学における教員の労働契約の期間に関する規程（平成16年規程第45号）に基づき、労働契約の期間を定めて採用することができる。

- 2 前項の労働契約の期間が満了した場合は、教育研究評議会等の審議を経て、労働契約の期間を更新することができる。ただし、当該労働契約の期間は、通算して5年（大学の教員等の任期に関する法律（平成9年法律第82号。以下「任期法」という。）第5条第1項により期間の定めのある労働契約を締結した者にあつては、10年とする。）を超えないものとする。
- 3 任期法第7条第2項に規定する当該大学に在学している期間は、前項に規定する「10年」には含まないものとする。
- 4 労働契約の期間を定めて採用又は更新された大学教員は、その期間中に退職することができる。

(定年)

第8条 教育職員の定年は、次のとおりとする。

- (1) 大学教員 満65歳
 - (2) 附属学校教員 満60歳
- 2 定年における退職の日は、定年に達した日以後における最初の3月31日とする。
 - 3 前二項の規定にかかわらず、労働契約の期間を定めて採用又は更新する場合はこの限りでない。

(懲戒)

第9条 学長は、教育職員の懲戒処分を行う場合は、教育研究評議会等の審議の結果により行うものとする。

2 第4条第2項から第5項までの規定は、前項の審議の場合に準用する。

3 学長は、第1項の審議を行うに当たり、教育職員懲戒審査委員会を設置し、審査するものとする。

(教育職員懲戒審査委員会)

第9条の2 教育職員懲戒審査委員会は、就業規則第63条第1項及び第64条の規定に基づき審査する。

2 前項の委員会は、学長が任命する次の委員をもって組織する。

(1) 学長が指名する理事

(2) 各学部長

(3) 各学部教育研究評議会評議員 各1人

(4) 法律学担当教員1人

3 委員会に委員長を置き、前項第1号の理事をもって充てる。

4 委員会は、第1項の審査に当たり必要があると認めた場合は、次の委員をもって組織される調査委員会を設置して調査することができる。ただしイコール・パートナーシップに係る事案については、国立大学法人大分大学イコール・パートナーシップ委員会の報告に基づいて審査するものとする。

(1) 学長が指名する理事

(2) 当該学部の学部長

(3) 当該学部の第2項第3号委員

(4) 第2項第4号委員

(服務)

第10条 大学教員の服務については、就業規則に定めるものを除いては、教育研究評議会等の審議を経て、学長が別に定める。

(勤務成績の評定)

第11条 大学教員の勤務成績の評定及び評定の結果に応じた措置は、教授会の審議を経て、各部局等の長が行う。

2 前項の勤務成績の評定は、教育研究評議会の審議を経て、学長が定める基準により行わなければならない。

(試用期間)

第12条 就業規則第10条第1項本文の規定にかかわらず、附属学校教員の試用期間は、1年とする。ただし、国、都道府県、又はその他の関係の職員から引き続き法人の職員として採用された者については、これを短縮し、又は設けないことがある。

(研修)

第13条 教育職員は、その職制を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。

2 学長は、教育職員の研修について、それに要する施設、研修を奨励するための方途その他研修に関する計画を立案し、その実施に努めなければならない。

(研修の機会)

第14条 教育職員には、研修を受ける機会が与えられなければならない。

2 教育職員は、授業に支障のない限り、学長の承認を受けて、勤務場所を離れて研修を受けることができる。

3 教育職員は、学長の定めるところにより、現職のまま、長期にわたる研修を受けることができる。

(サバティカル制度)

第14条の2 教育職員は、授業、学生指導、社会貢献、大学運営等に係る通常業務のすべてを一定期間免除され、教員自らが研究目標を定めて自主的調査研究に専念できる制度（以下「サバティカル制度」という。）を利用することができる。

2 サバティカル制度に関し必要な事項は別に定める。

(初任者研修)

第15条 学長は、附属学校教員（次条に規定する職員を除く。）に対して、その採用から1年間の教諭の職務の遂行に必要な事項に関する実践的な研修（以下「初任者研修」という。）を実施しなければならない。

2 学長は、附属学校の校長、教頭、主幹教諭、指導教諭又は教諭のうちから、指導教員を命ずるものとする。

3 指導教員は、初任者に対して教諭の職務に必要な事項について指導及び助言を行うものとする。

(初任者研修適用除外者)

第16条 前条第1項の「次条に規定する職員」とは、次の各号の一に該当する職員とする。

(1) 臨時的に採用された者

(2) 教諭又は常勤の講師として国立、公立又は私立の小学校及び中学校において、引き続き1年を超える期間を勤務したことがある者で、学長が教諭の職務遂行に必要な事項についての知識又は経験の程度を勘案し、初任者研修を実施する必要がないと認める者

(3) 任期を定めて採用された者

(中堅教諭等資質向上研修)

第17条 学長は、附属学校教員に対して、個々の能力、適性等に応じて、公立の小学校等における教育に関し相当の経験を有し、その教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図るために必要な事項に関する研修（以下「中堅教諭等資質向上研修」という。）を実施しなければならない。

2 学長は、必要と認めるときは、職員研修規程第3条第3項により他の機関に委託して実施した中堅教諭等資質向上研修について、法人が実施したものとみなすことができる。

(中堅教諭等資質向上研修適用除外者)

第18条 前条の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者については、中堅教諭等資質向上研修の対象から除くものとする。

(1) 臨時的に採用された者

(2) 他機関で実施する中堅教諭等資質向上研修を受けた者で、学長が当該者の能力、適性等を勘案して中堅教諭等資質向上研修を実施する必要がないと認めるもの

(3) 任期を定めて採用された者

(4) 指導主事、社会教育主事、その他教育委員会において学校教育又は社会教育に関する事務に従事した経験を有する者で、学長が当該者の経験の程度を勘案して中堅教諭等資質向上研修を実施する必要がないと認めるもの

(大学院修学休業の許可及びその要件等)

第19条 附属学校教員で次の各号のいずれにも該当するものは、学長の許可を受けて、3年を超えない範囲で年を単位として定める期間、大学の大学院の課程若しくは専攻科の課程又はこれらの課程に相当する外国の大学の課程（次項及び第22条第2項において「大学院の課程等」という。）に在学してその課程を履修するための休業（以下「大学院修学休業」という。）をすることができる。

(1) 主幹教諭、指導教諭、教諭又は講師にあつては教育職員免許法（昭和24年法律第1

47号)に定める教諭の専修免許状、養護教諭にあつては同法に定める養護教諭の専修免許状、栄養教諭にあつては同法に定める栄養教諭の専修免許状の取得を目的としていること。

(2) 取得しようとする専修免許状に係る基礎となる免許状(教育職員免許法に定める教諭の一種免許状若しくは特別免許状、養護教諭の一種免許状又は栄養教諭の一種免許状であつて、同法別表第6、別表第6の2又は別表第7の規定により専修免許状の授与を受けようとする場合には有することを必要とされるものをいう。次号について同じ。)を有していること。

(3) 取得しようとする専修免許状に係る基礎となる免許状について、教育職員免許法別表第3、別表第5、別表第6、別表第6の2又は別表第7に掲げる最低在職年数を満たしていること。

2 大学院修学休業の許可を受けようとする主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭又は栄養教諭は、取得しようとする専修免許状の種類、在学しようとする大学院の課程等及び大学院修学休業をしようとする期間を明らかにして、学長に対し、その許可を申請するものとする。

(大学院修学休業適用除外)

第20条 前条の規定にかかわらず、次に掲げる者は、大学院修学休業の対象から除くものとする。

- (1) 条件付採用期間中の者
- (2) 臨時的に採用された者
- (3) 初任者研修を受けていない者
- (4) 許可を受けようとする大学院修学休業の期間の満了の日の前日までの間又は大学院修学休業の期間満了日から1年以内に定年退職日が到来する者
- (5) 定年退職日以降引き続き勤務している者
- (6) 就業規則第22条第1項又は同規則第23条第1項により採用された者

(大学院修学休業の効果)

第21条 大学院修学休業をしている主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭又は栄養教諭は、職員としての身分を有するが、職務に従事しない。

2 大学院修学休業をしている期間については、給与を支給しない。

(大学院修学休業の許可の失効等)

第22条 大学院修学休業の許可は、当該大学院修学休業をしている主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭又は栄養教諭が休職又は停職の処分を受けた場合には、その効力を失う。

2 学長は、大学院修学休業をしている主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭又は栄養教諭が当該大学院修学休業の許可に係る大学院の課程等を退学したこと又は次の各号のいずれにも該当することとなった場合は、当該大学院修学休業の許可を取り消すものとする。

(1) 大学院修学休業をしている主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭又は栄養教諭が、正当な理由なく、当該大学院修学休業の許可にかかる大学の大学院の課程若しくは専攻科の課程又はこれらに相当する外国の大学の課程を休学し、又はその授業を頻繁に欠席しているとき。

(2) 大学院修学休業をしている主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭又は栄養教諭が教育職員免許法第4条第2項に規定する専修免許状を取得するのに必要とする単位を当該大学院修学休業の期間内に修得することが困難となったとき。

第23条 削除

(補則)

第24条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、教育研究評議会の審議を経て、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年規程第30号）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成18年規程第63号）

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 第8条第1項第1号に規定する大学教員（医学部（附属病院を含む。）の教員及び平成15年9月30日現在において、大分医科大学の教員として在職していた者で、平成15年10月1日付けで大分大学の教員に転任した者を除く。）の定年は、同号の規定にかかわらず、次のとおりとする。
 - （1）平成18年3月31日まで 満63歳
 - （2）平成18年4月1日から平成20年3月31日まで 満64歳

附 則（平成18年規程第105号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年規程第50号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年規程第36号）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年規程第51号）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成24年規程第9号）

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年規程第55号）

この規程は、平成24年7月4日から施行する。

附 則（平成24年規程第74号）

この規程は、平成24年10月1日から施行する。

附 則（平成24年規程第117号）

この規程は、平成24年10月17日から施行する。

附 則（平成24年規程第119号）

この規程は、平成24年11月12日から施行する。

附 則（平成25年規程第6号）

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成26年規程第55号）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成27年規程第11号）

この規程は、平成27年2月23日から施行し、改正後の第7条第2項及び第3項の規定は、平成25年4月1日からこの規程の施行日前日までの間の日を労働契約の期間の初日とするものに係る労働契約の期間についても適用する。

附 則（平成27年規程第18号）
この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成27年規程第26号）
この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成27年規程第58号）
この規程は、平成27年10月1日から施行する。

附 則（平成28年規程第27号）
この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年規程第67号）
この規程は、平成29年1月1日から施行する。

- 附 則（令和3年規程第7号）
- 1 この規程は、令和3年3月23日から施行し、改正後の国立大学法人大分大学教育職員規程の規定は、平成29年4月1日から適用する。
 - 2 平成29年4月1日以降に他の機関に委託して実施した中堅教諭等資質向上研修については、改正後の国立大学法人大分大学教育職員規程の規定により、法人が実施したものとみなす。